

第2回奈良県総合教育会議

日時 平成27年9月4日（金）

15：00～16：30

場所 奈良県庁5階 第一会議室

〔次 第〕

1 開会

2 議題

- (1) 奈良県教育振興大綱策定の進め方（案）について
- (2) 奈良県教育振興大綱策定にかかる外部有識者の選定（案）について
- (3) 平成27年度奈良県学力・学習状況調査の結果について
- (4) 市町村別総合教育会議の進捗状況について（報告）

3 総括

4 閉会

第2回奈良県総合教育会議 出席者

		氏 名
教育委員会	教育長	吉田 育弘
	教育委員	花山院 弘匡
	教育委員	佐藤 進
	教育委員	森本 哲次
	教育委員	藤井 宣夫
	教育委員	高本 恭子

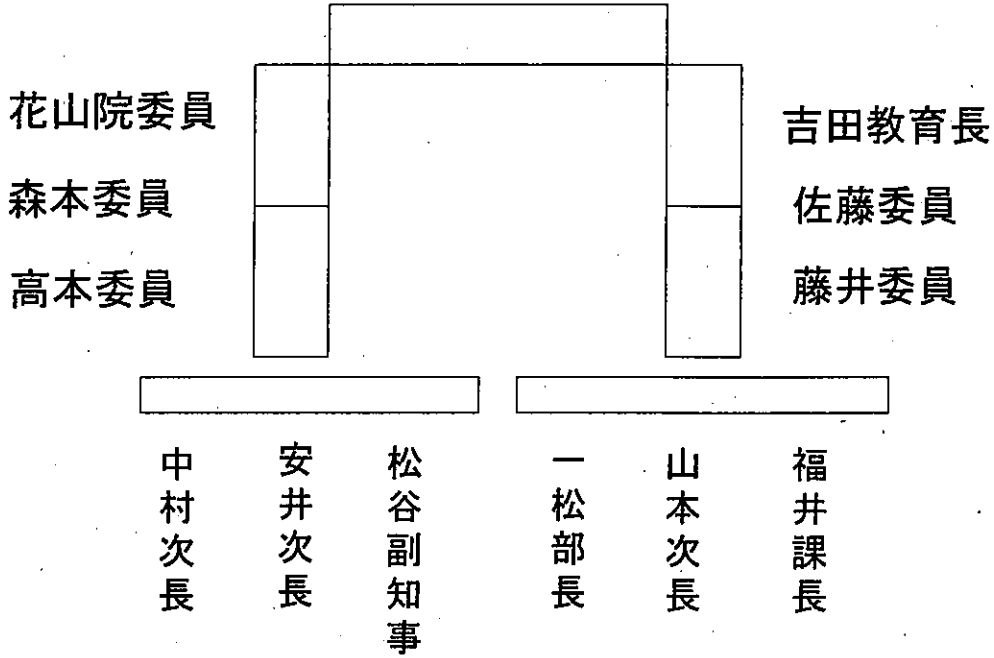
県	知 事	荒井 正吾
---	-----	-------

第2回奈良県総合教育会議

座席表

平成27年9月4日(金)
15時00分～16時30分
場所:第1会議室

荒井知事



事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局
-----	-----	-----	-----	-----	-----

関 係 課

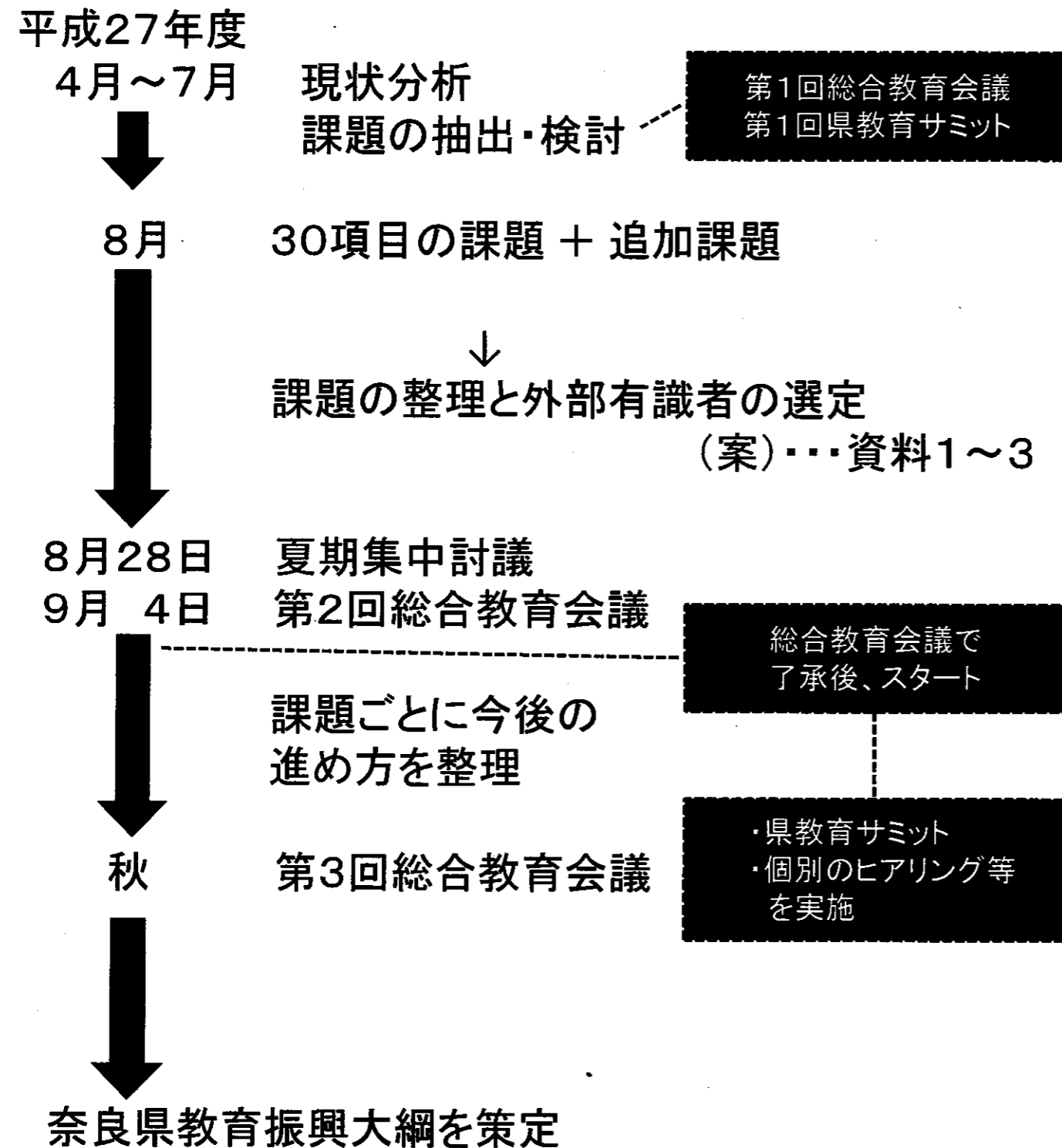
配 者 席

傍 聴 席 (1 0 名)

資 料 一 覧

- 資料 1 奈良県教育振興大綱策定の進め方（案）
- 資料 2 奈良県総合教育会議において出された課題の整理（案）
- 資料 3 奈良県教育振興大綱策定にかかる外部有識者の選定（案）
- 資料 4 これまでに出された主な意見等～課題の整理に向けて～
- 資料 5 平成 27 年度奈良県学力・学習状況調査の結果について
- 資料 6 市町村別総合教育会議 進捗状況一覧

奈良県教育振興大綱策定の進め方(案)



第1回総合教育会議
第1回県教育サミット

総合教育会議で
了承後、スタート

・県教育サミット
・個別のヒアリング等
を実施

- 1 教育の現状・将来分析と課題
 - ～教育需要とそれを踏まえた教育のあり方～
 - ～社会の要請(少子高齢化、グローバル化、子どもの貧困等)への対応～
 - ～奈良県及び奈良県における教育の実情を踏まえた対応～
- 2 理念と基本目標
 - ～どのような人を育てることを目的とするのか(「育人」)～
 - ～「育人」を教育によっていかに成し遂げるか～
 - ～基本目標の設定とPDCAサイクルの活用～
- 3 今後の施策の方向性
 - (1) 奈良県における教育体制のあり方
 - ① 基本的考え方 ～各学校段階・家庭・社会の相互連携と円滑な接続等～
 - ② 就学前教育・家庭教育 ～幼稚園・保育所の役割、家庭での教育～
 - ③ 義務教育 ～小・中学校等の役割、学校と保護者との関係～
 - ④ 高等学校の教育 ～高等学校等の役割～
 - ⑤ 高等教育 ～大学・大学院・専修学校等の役割、研究と産業の連携～
 - ⑥ 生涯学習
 - ⑦ 障害児(者)の教育 ～特別支援学校の役割、インクルーシブ教育の推進、就労支援～
 - ⑧ 私学教育 ～私学教育の役割、私学助成のあり方～
 - ⑨ 私的教育機関 ～塾などの役割～
 - (2) 奈良県における教育課題への対応
 - ① 規範意識の向上
 - ② 学習意欲の向上
 - ③ スポーツ・体力の向上
 - ④ いじめ・不登校等への対応
 - ⑤ 青少年の健全育成と更生・自立支援
 - ⑥ 実学教育、就労教育
 - ⑦ 国際教育
 - ⑧ 人権教育
 - ⑨ 郷土学習
 - ⑩ 食育 等
 - (3) 「育人」を支える教育の質の確保・向上に向けて
 - ① 人材の育成と活用
 - ～優れた教師等を確保する条件整備(養成、研修等)、外部人材の活用等～
 - ② 施設等の環境整備
 - ～耐震化を含む学校の安全確保、芝生化、給食体制等～

【当初案】



【総論】

- 1 奈良県教育の現状・将来分析と課題
- 2 理念と基本目標

○総合教育会議顧問

松本 紘(理化学研究所理事長)、板東 久美子(消費者庁長官)

○教育アドバイザー

高見 茂(京都大学教授)、本田 恵子(早稲田大学教授)
沖田 行司(同志社大学教授)

担当課:教育振興課、教育委員会

【各論】

- 3 今後の施策の方向性
- (1) 奈良県教育のあり方

- | | | |
|-------------|---------------|-----------|
| ①基本的考え方 | ※【総論】に同じ | 教育振興課 |
| ②就学前教育・家庭教育 | | 教育振興課 |
| ③義務教育 | 高見茂 (京大教授) | 教育委員会 |
| ④高等学校の教育 | | 教育委員会 |
| ⑤高等教育 | 野田一夫(日本総研会長) | 教育振興課 |
| ⑥生涯学習 | ※人選中 | 青少年・生涯学習課 |
| ⑦障害児(者)の教育 | 加藤篤彦(武蔵野東学園) | 教育委員会 |
| ⑧私学教育 | | 教育振興課 |
| ⑨私的教育機関 | 沖田行司(同志社大学教授) | 教育振興課 |

(2) 奈良県教育の個別課題

- | | | |
|----------------------|----------------------------------|--------------------|
| ①規範意識の向上 | ※【総論】に同じ | 教育委員会 |
| ②学習意欲の向上 | ※【総論】に同じ | 教育委員会 |
| ③スポーツ・体力の向上 | 蝶間林利男
(横浜国立大学名誉教授) | スポーツ振興課 |
| ④いじめ・不登校への対応 | 伊藤美奈子
(奈良女子大学教授) | 教育振興課 |
| ⑤青少年健全育成と
更生・自立支援 | 本田恵子(早稲田大学教授) | 青少年・生涯学習課
雇用労政課 |
| ⑥実学教育、就労教育 | 浮舟邦彦(滋慶学園総長) | 教育振興課 |
| ⑦国際教育 | 竹内行夫(元外務事務次官) | 教育振興課 |
| ⑧人権教育 | 大寺和男
(人権教育推進協議会会長、天理
大学講師) | 教育委員会 |
| ⑨郷土学習 | 岡本彰夫(県立大学客員教授) | 教育振興課 |
| ⑩食育 | ※人選中 | 健康づくり推進課 |

(3) 教育の振興に向けた環境整備

- | | | |
|-----------|-----------|-------|
| ①人材の育成と活用 | ※【総論】に同じ | 教育振興課 |
| ②施設等の環境整備 | 高見茂(京大教授) | 教育委員会 |

○奈良県教育振興大綱策定にかかる外部有識者の選定について

- ・「総論」、「各論」共に総合教育会議顧問や教育アドバイザーによる大所高所からの指導助言をいただく。
- ・「各論」の項目は、各項目の専門家を外部有識者として意見聴取する。
- ・上記以外の有識者にも必要に応じて意見聴取を行う。

資料4

これまでに出了された主な意見等～課題の整理に向けて～

(1) 奈良県教育の目的、理念、理論について

- ① 奈良県教育の目的は何か。
どのような人を育てることを目的とするのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 教育から育人、どのように「ひと」を育てていくのか。
- 国家教育ではなく地域教育を。
- 知恵の托鉢をやってはどうか。
- 高い道徳性、責任感、行動力を備えた人材を育成する。
- 異文化を理解し、コミュニケーション能力を備えたグローバルな人材を育成する。
- 優れた論理力と発進力を備えた人材を育成する。
- ※ 県の教育の目的は「育人」、人を育てること。「育人」は、社会のための教育というフレーム化よりも、本人のため、本人の能力を伸ばす教育を奈良県教育では入れ込む方向。
- ※ 奈良県としてオリジナルな“教育訓”がほしい。
- ※ ふるさと、地域のよさを知っている子どもを育てたい。
- ※ 子どもだけでなく、父や母も含めた人間教育が大切。

- ② 奈良県ではどのような教師を育てるべきと考えるのか。
理想の教師を育てる条件は何か。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 教員の研修体制の構築が必要。
- 教師の再研修を。マイスター制の導入はどうか。
- スキルアップに繋がる教員研修を。
- 情熱・ビジョン・人間的な魅力等のある教師がよい。
- よい先生の特長行動をモデル化して分析していく必要がある。
- 教員の評価方法を考える必要がある。
- ※ 「教員の育人」がパーソナルマネジメントの大きな課題である。
- ※ 先生方の指導力、熱意が大切。
- ※ 先生方の長所や、組織のチーム力を高めるマネジメントが必要。

- ③ 奈良県教育の方法は。
理想の人を育てる方法はどのようなものか。奈良県教育理論をつくるにはどうすればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- エビデンスベーストによる資料に基づき、地域の実情に応じた奈良県教育理論を創造する必要がある。
- 日本人の倫理観教育をどうするのか。
- 家庭を取り込んでいくのが教育の原点。
- ※ 親や家庭教育における意識の高揚も図る必要がある。
- ※ 画一的な学力向上にとらわれず、地域の中で生き抜いていく力は何かという捉えも必要ではないか。
- ※ 教育こそが地方の創生につながるはず。
- ※ 県と市町村の連携を進めるには、事務局連携会議を開催し、情報交換することも大切。

- ④ 奈良県教育成果のとらえ方。教育成果はどのようにして測ることができるのか。
測ることのできる成果をどのようにとらえ、どのように活用するのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- エビデンスベーストの理論。地域での差異の分析を展開しながら理論の根っこを考えていく。
- ※ KPI（重要業績評価指標）といわれる成果目標をどのように県の教育大綱に入れていくのか検討を要する。絶対的な目標ができればよいのだが。

(2) 奈良県教育の構造・制度の課題をどうとらえるのか。

① 大学の役割について

総合大学の必要性、私立大学の役割、県立医大の役割、県立大学のあり方、奈良教育大学の役割、奈良女子大の役割は。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 研究と大学との結びつきが大切。産学連携も含む。
- 県立医大には建学の精神がない。県には総合大学がない。
- 総合大学よりも、とがったものをつくるべき。
- ※ 奈良県にはまちづくり、都市計画等にかかわる総合大学が必要。

② 実学教育、就労教育のあり方

大学校の役割、専修学校の役割、その他の教育組織の意味

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 奈良県独自資格の創造
- シェフ、オーベルジュの大学校を創っているが、連携の場がもっとできないものか。
- 観光産業、テニススクールなど、実学に近いところから大学校をつくってベンチマークを回していったらどうか。

③ 私学教育のとらえ方

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 私学教育の役割
- 私学助成の在り方

④ 就学前教育のあり方

幼稚園、保育所のあり方。就学前教育のあり方。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 神経系の発達は就学前。よって、この時期に力を入れる。
- 「奈良県こども子育て応援プラン」も参考に。
- 家庭教育のあり方
- 効果的な就学前教育の取組
- ※ 神経発達にも役に立つバイオリンを就学前に教えようかと思う。
- ※ スキャモン曲線にあるように、時期に応じた運動神経発達教育をフレーム化して行うかどうかが課題である。
- ※ 県の話から、就学前教育は重要であると認識した。
- ※ 小学校に入学するときには差がついている。就学前教育に一定の水準が必要ではないか。
- ※ 就学前教育においては、所得格差が負の連鎖、スパイラルになっており、食い止める必要がある。
- ※ 民間活力を使うべきという意見もあった。

⑤ 塾など、私的教育機関の役割をどう考えるのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 奈良県は通塾率が高いが、通塾率の低い秋田が学力が高いのはなぜか。
- 私的教育機関との連携も考えたらどうか。

(3) 奈良県教育の環境整備をどのように行うのか。

① 奈良県の大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育所の今後の需要をどうとらえ、それに対応する教育サービスの提供をどのようにしていくのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 学校規模の適正化
- ※ 過疎化による小中一貫校の設置
- ※ 行政区画を越えて統廃合を考へないといけな時期がくる。
- ※ 過疎化の地域では教員の確保も問題。

② それぞれの教育組織の教員の需要をどうとらえ、供給側をどのようにするのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 教職員配置の適正化
- ※ 多様な生徒への対応に向けた専門教員の配置を。

③ よい教育はどのようにすればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- ※ 家での親の対応が学力や規範意識に関係あるのではないか。

④ 教育現場の環境整備をどのように行っていくのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 耐震化
- 芝生化
- 教室環境の整備(空調設備)

⑤ 給食体制をどのように進めるのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 給食体制の充実
- 子どもの頃の栄養が老年の体力に影響するの。給食を充実させることで要介護率が低くなればよい。
- ※ 就学前の栄養補給はとても大事。家庭の差を学校で補えるかどうか。
- ※ 食事に対する家庭の意識の高揚

⑥ 運動、部活の意味をどのようにとらえ、その環境整備はどのようにするの。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 外部人材の活用

(4) 教育と社会との関係をどのようにとらえるのか。

① 教育に対する社会の要請は変化してきている。それをどのようにとらえればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- スキルアップや、新たな仕事に就くためのサポート体制が必要。奈良県独自の資格を創ってみたいかどうか。
- 社会人教育の現状は。スキルを身に付けるために学びなおしたい場合の受け皿が必要ではないか。
- 「人材の再利用」が必要。世の中のサイクルは早く、社会に出た後再び仕入れて人材を生み出す。再利用の仕組みを考えていかなければいけないのが大綱の大きな意味か。
- 新規高卒者がマイスターのような専門的な技術を身に付け、奈良で働けるような、企業との連携を考えてみたいかどうか。

② 教育と社会との接続(就労のあっせん、教育の出口管理など)をどのようにすればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 若者の県内企業への就職率の向上
- 企業と連携して学校を経営する。職能学校を民間でも協定でできるのでは。全てでなく、成績優秀者を何名かをとるとよい。
- 「第8次奈良県職業能力開発計画」も参考に。

③ 貧困家庭の子どもの教育のあり方は。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- サポートの構築
- 「奈良県ひとり親家庭等の自立支援プラン」も参考に。
- 「奈良県子どもの貧困対策」の策定(H27年度中)
- ※ 貧困の格差が成績に大きく関連しているのではないかと。

④ 障害者の教育はどうすればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 障害者の就労支援
- インクルーシブ教育の推進

⑤ 保護観察者の就労、社会復帰はどのようにすればよいのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 保護観察者の就労・社会復帰

⑥ 人権教育の進め方は。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- 人権教育の推進

⑦ 保護者と学校との望ましい関係は。

【これまでに出了された主な意見等】

- ・ 特になし

(5) 教育現場の課題は何か。それとどう向かい合うのか。

① いじめ、校内暴力、ニート、引きもり

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- いじめ問題の解消
- 不登校児童生徒の減少
- ニートの自立支援

② 地域の教育力の差

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 地域教育力の向上
- ※ 生徒の能力が同じなら、地域の教育の差はまず教員にあるのではないか。
- ※ 過疎地域における教育

③ 低い規範意識、学習意欲、体力

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 関西が全体的に低い奈良県は更に低い。学校の責任であると教育委員会も認識している。生まれつきの意欲にはそんなに差異はないはず。
- 体力はずいぶん上がってきた。先生が頑張ると上がるという証拠。
- 規範意識の醸成
- 学習意欲の向上
- ※ 学校行事に体力向上の取組を位置付ける。
- ※ 家族への意識付けも大切。
- ※ 家庭での手伝いが必要。
- ※ 体力向上には地域の力が必要。
- ※ 地域の得意な種目を活かすことも大切。
- ※ 運動が好きになる具体的な営み、工夫が必要。
- ※ 競争も必要ではないか。
- ※ スクールバスが体力向上にマイナスになっている面もある。
- ※ 社会体育と結びつけて、運動経験をしっかりさせる取組が大切。
- ※ 体力向上には専門家のアウトソーシングの活用を検討することも必要。
- ※ 道徳教育については、県民の意識改革、家庭の意識改革が必要。

④ 就学前教育

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- <前述参照>
所管を越えて、県が市町村のブリッジの役割をすることが必要。

⑤ スポーツ教育

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 子どもの体力向上
- 地域のスポーツ活動の充実
- スポーツと医療(健康)との関連性
- スポーツクラブの育成(アマ・プロ)
- 「スポーツ振興計画」も参考に。
- ※ 子どもの学外スポーツのあり方、総合スポーツのあり方を検討する必要がある。
- ※ スポーツイベントが、大人も含めた体力の向上に効果的か。
- ※ 過疎地域ではクラブ活動が非常にやりにくい状況になっている。
- ※ 小規模校同士が集まってチーム出場を可能に。

⑥ シニアの教育

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 社会との関係では、定年退職後の社会貢献なども考える必要がある。
- ※ 大人の学びについて、シニアカレッジのような文化フォーラム的なものの展開が課題。

⑦ 就労した後の教育をどのように提案するのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出了された主な意見等。)

- スキルアップや新たな職に就くためのサポート体制の構築
- 高校に行かなかったルートからはずれた人の教育をどうするか。

⑧ 県外就労者に奈良の実情を知ってもらうには。

【これまでに出された主な意見等】

特になし

【追加課題】

① 郷土教育

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 地域ならではの教育、奈良らしい教育を大綱に掲げたい。
- 古代からの日本人の特性(正直、勤勉など)を大切に、地域や日本に誇りを持つことが奈良県らしさにつながるのではないか。

② 国際教育

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- グローバル人材、異文化理解ができる人材の育成を進めたい。

平成27年度奈良県学力・学習状況調査の
結果について

奈良県教育委員会

目 次

平成27年度奈良県学力・学習状況調査の結果について

1 学力について P	1
2 質問紙の分析(学校別) P	6
3 質問紙の分析(団体別) P	12

○ 奈良県学力・学習状況調査について(平成27年度新規事業)

「全国学力・学習状況調査」は小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年実施しているが、学力や学習状況等をよりきめ細かく把握・分析し経年変化から、指導の効果・課題を検証するため、本年度より県内小学校4年生と中学校1年生の全児童生徒を対象に、独自調査を実施した。

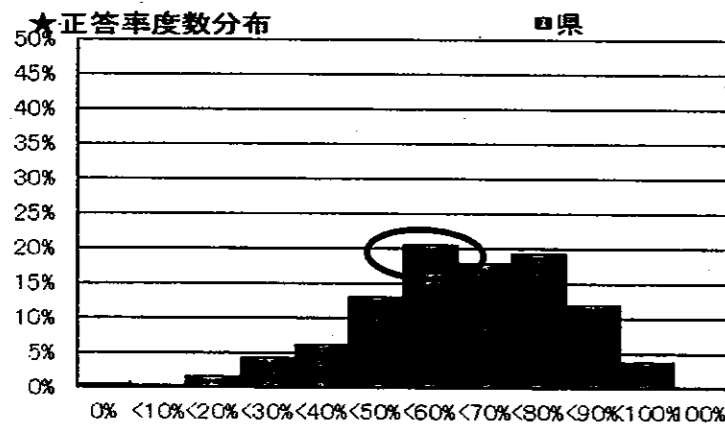
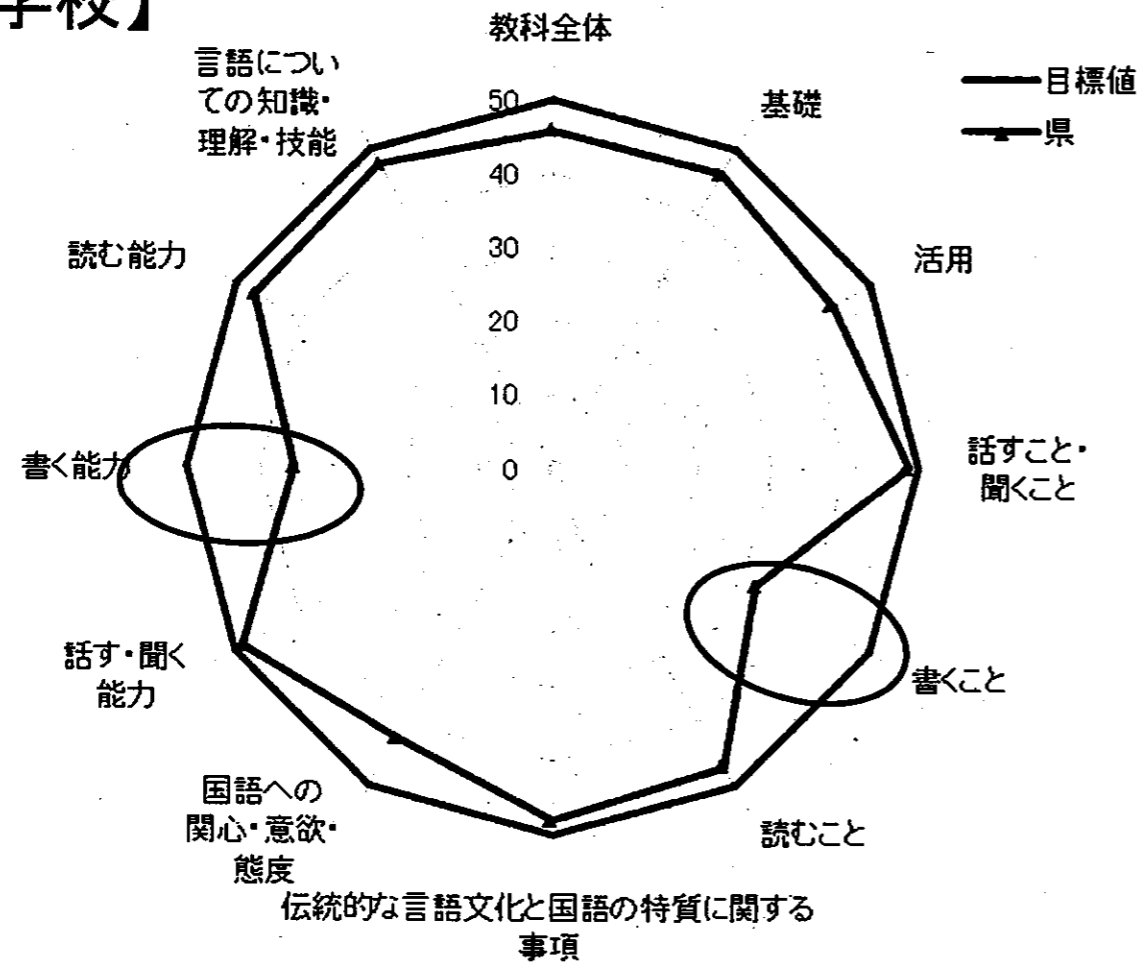
1 学力について

1-1 学力(国語)

・平成27年度奈良県学力・学習状況調査の結果から、国語では「書く能力」において、特に小学校で目標値との間に開きが見られる。

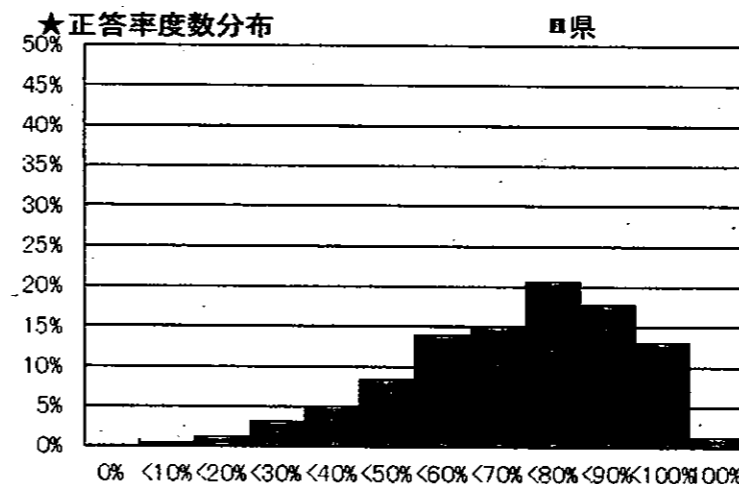
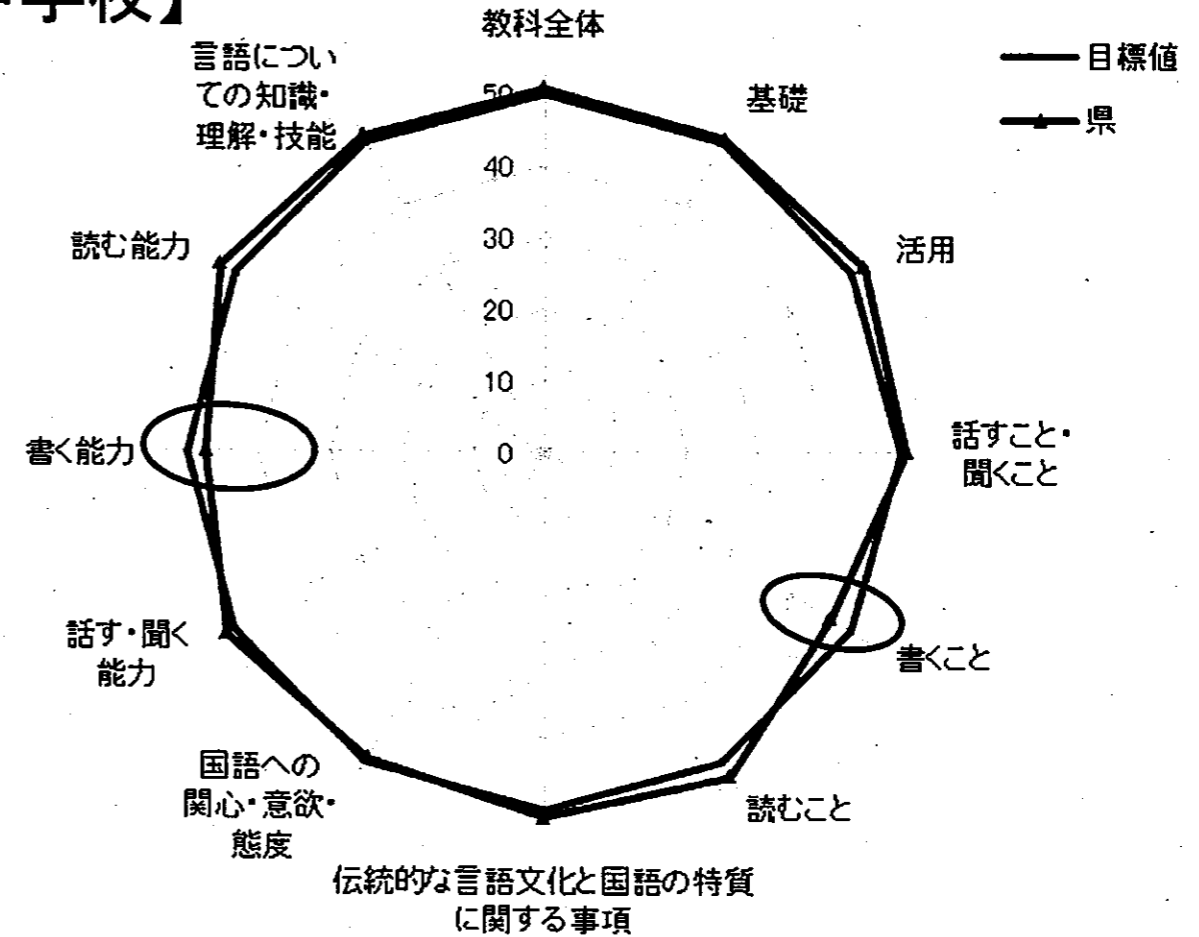
・正答率度数分布から、小学校では、正答率が50%から60%の児童数が一番多いことが分かる。

【小学校】



	平均正答率	中央値
奈良県	60.7	63.0
目標値	66.3	

【中学校】

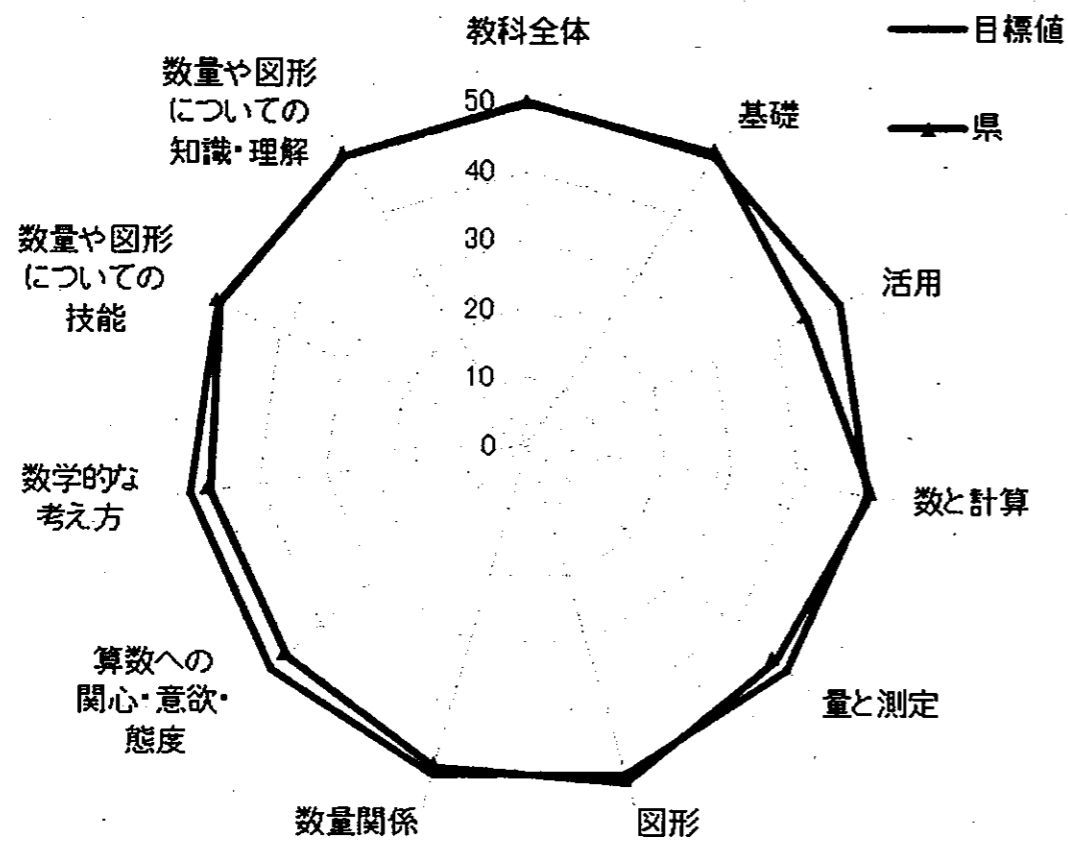


	平均正答率	中央値
奈良県	68.1	70.3
全国	67.0	

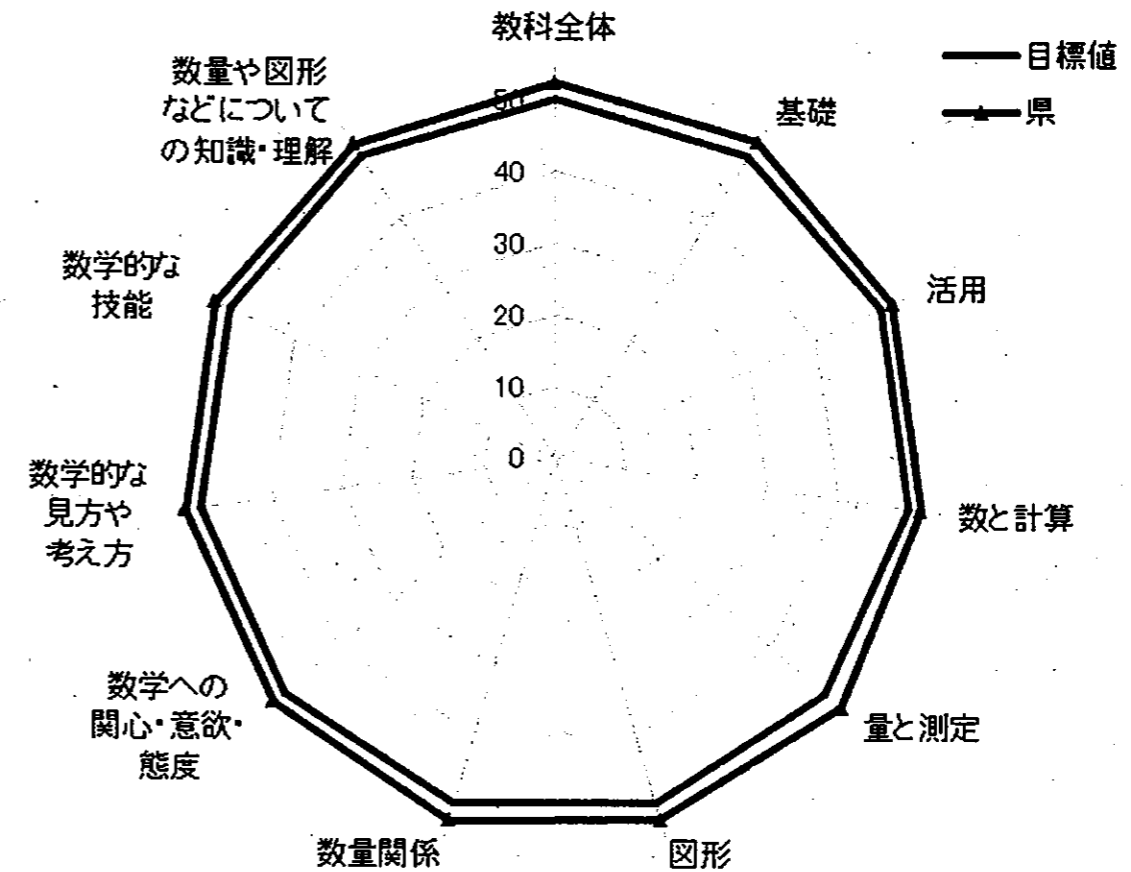
1-2 学力(算数・数学)

・平成27年度奈良県学力・学習状況調査の結果から、小学校4年生の算数は目標値に到達していない分野が多いが、中学校ではおおむね目標値を上回っている。
 ・正答率度数分布を見ると、中学校では二極化の傾向が見られる。

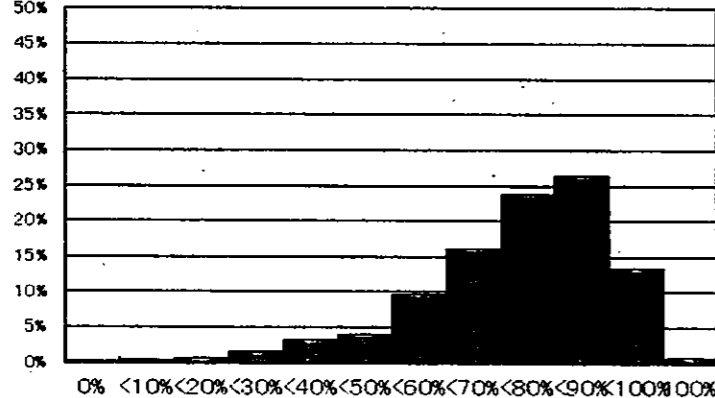
【小学校】



【中学校】

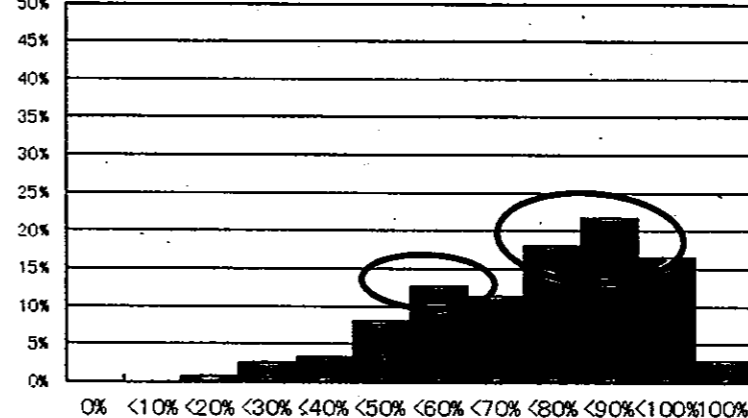


★正答率度数分布



	平均正答率	中央値
奈良県	72.9	76.3
目標値	73.3	

★正答率度数分布

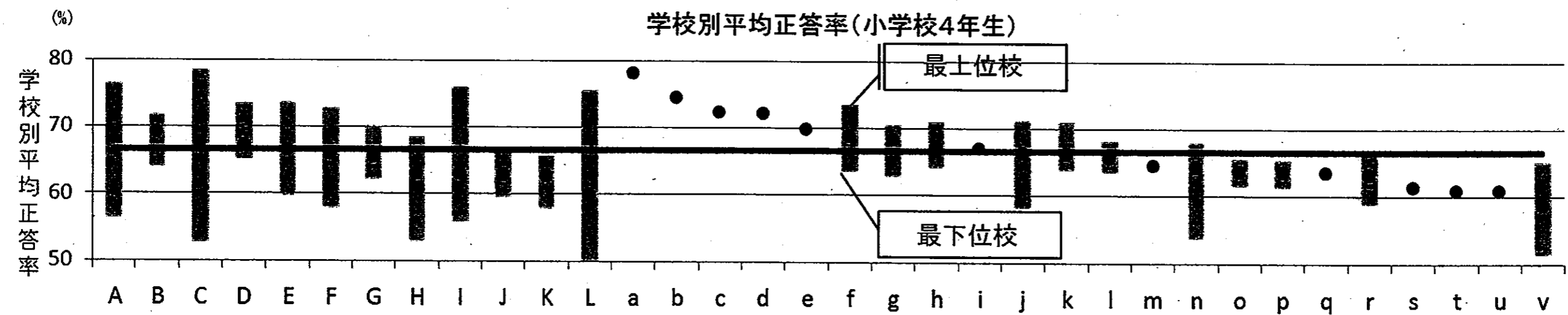
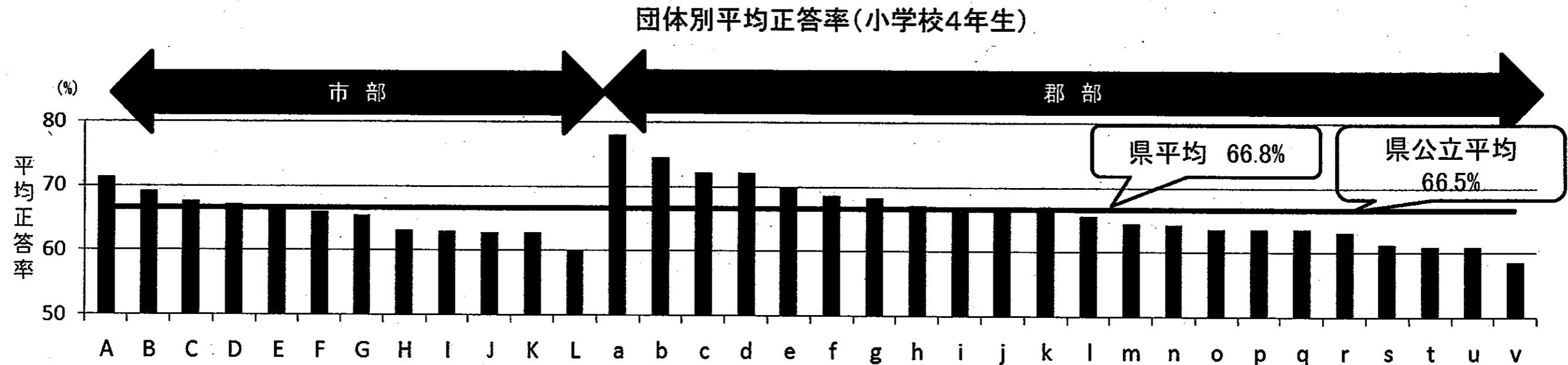


	平均正答率	中央値
奈良県	71.6	75.7
目標値	68.5	

1-3 学力(小学生・団体別比較)

・団体別学校分布を平均正答率で見ると、団体内においても、学力に正答率20%以上の開きが見られるところがある。低位にある学校の底上げが必要である。

注) 平均正答率は、国語教科正答率と算数教科正答率を相加平均したものである。

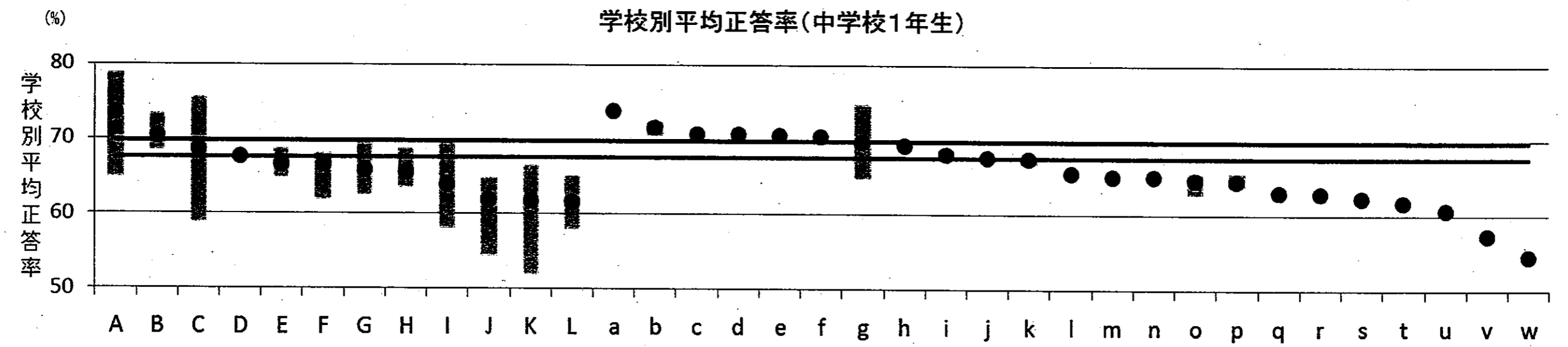
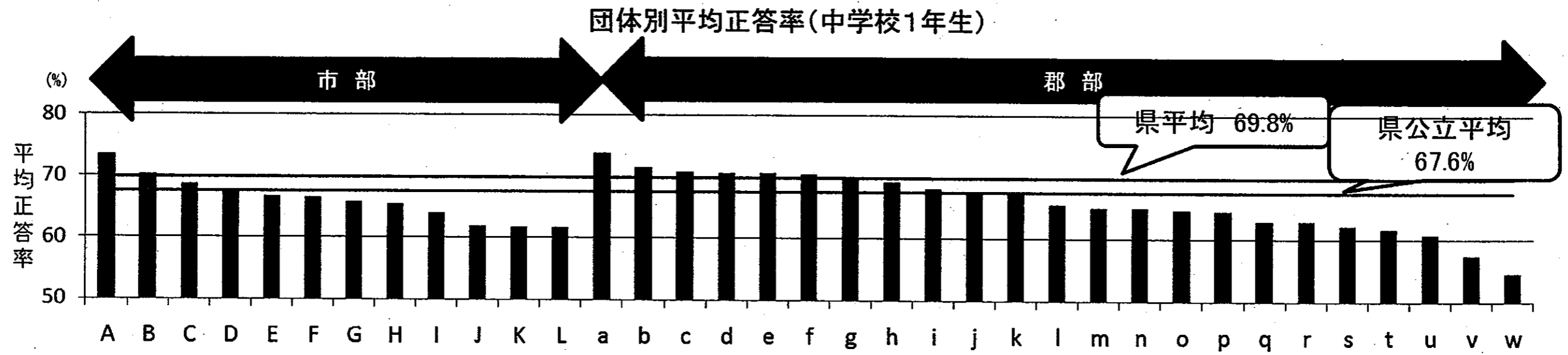


※児童数が3人以下の団体は非表示

1-4 学力(中学生・団体別比較)

・団体別学校分布を平均正答率で見ると、団体内においても、学力に正答率15%程度の開きが見られるところがある。低位にある学校の底上げが必要である。

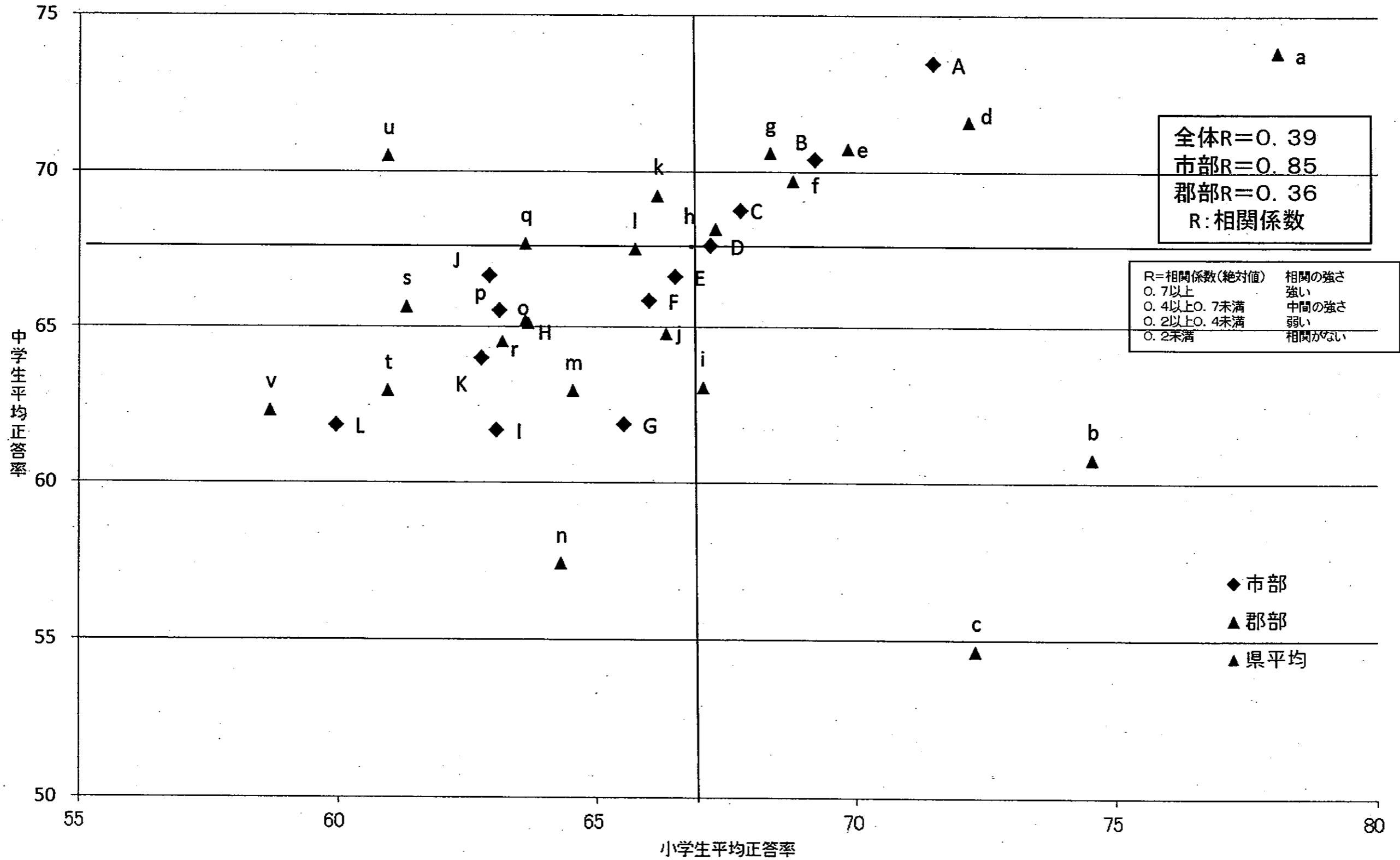
注) 平均正答率は、国語教科正答率と数学教科正答率を相加平均したもの。



※生徒数が3人以下の団体は非表示

1-5 学力(団体別比較・小学生と中学生)

・小学生と中学生の団体別平均正答率を比較すると、小学生と中学生の平均正答率の間には、市部において非常に強い相関が認められることが分かる。



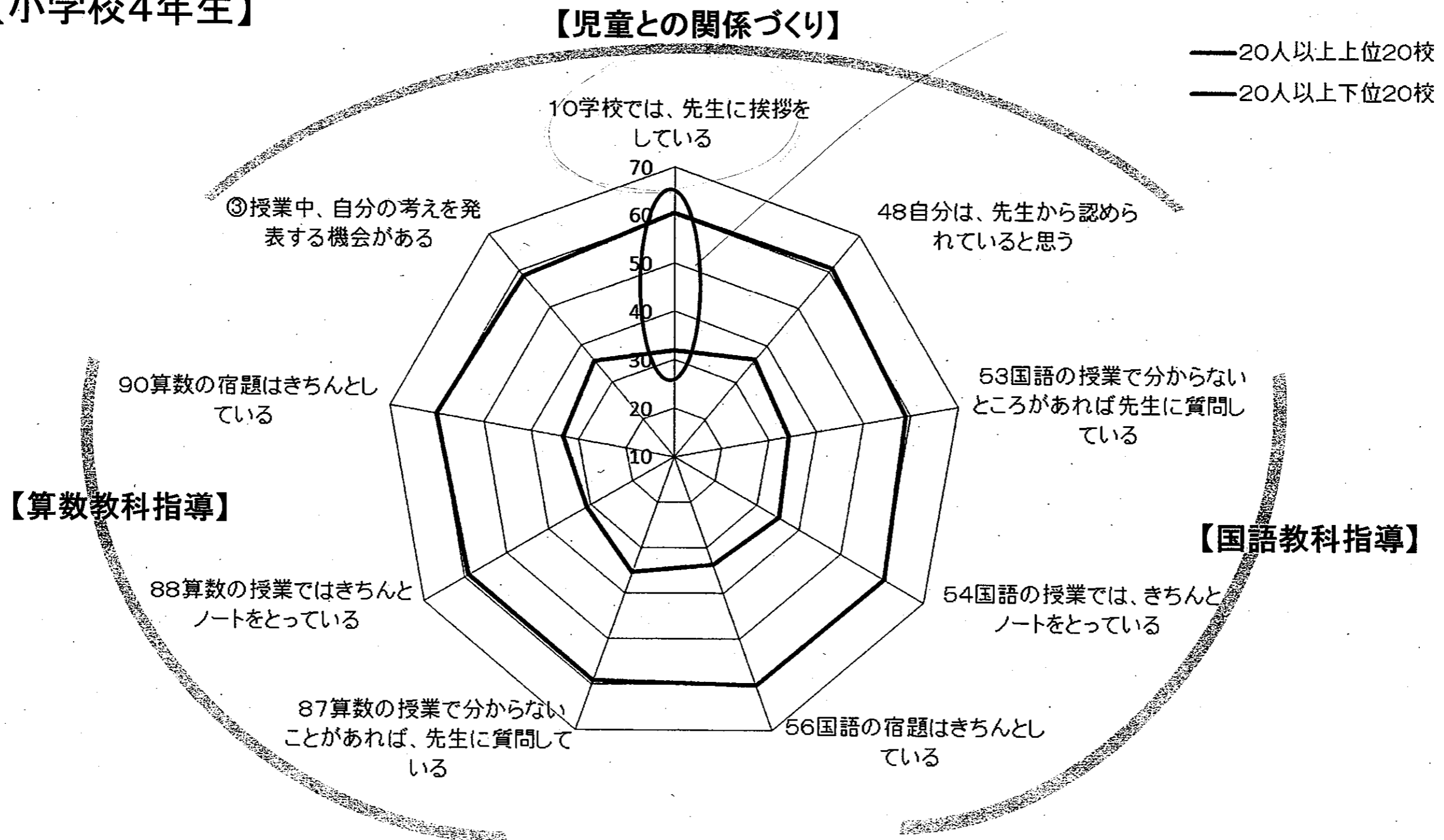
※児童生徒数が3人以下の団体は非表示

2 質問紙の分析(学校別)

2-1 質問紙項目の上位・下位20校比較(小学生)

・児童との関係づくりや教科指導をする際の基本的な姿勢を教員が自ら評価するための質問紙項目に対して肯定的に回答している児童の割合を偏差値化して学校別に比較すると、各項目の偏差値上位20校と下位20校には大きな差が見られることが分かる。特に、「先生に挨拶をしている」という項目の差は28.7ポイントで最大であった。

【小学校4年生】



2-2 「先生に挨拶をしている」項目の上位・下位20校比較(小学生)

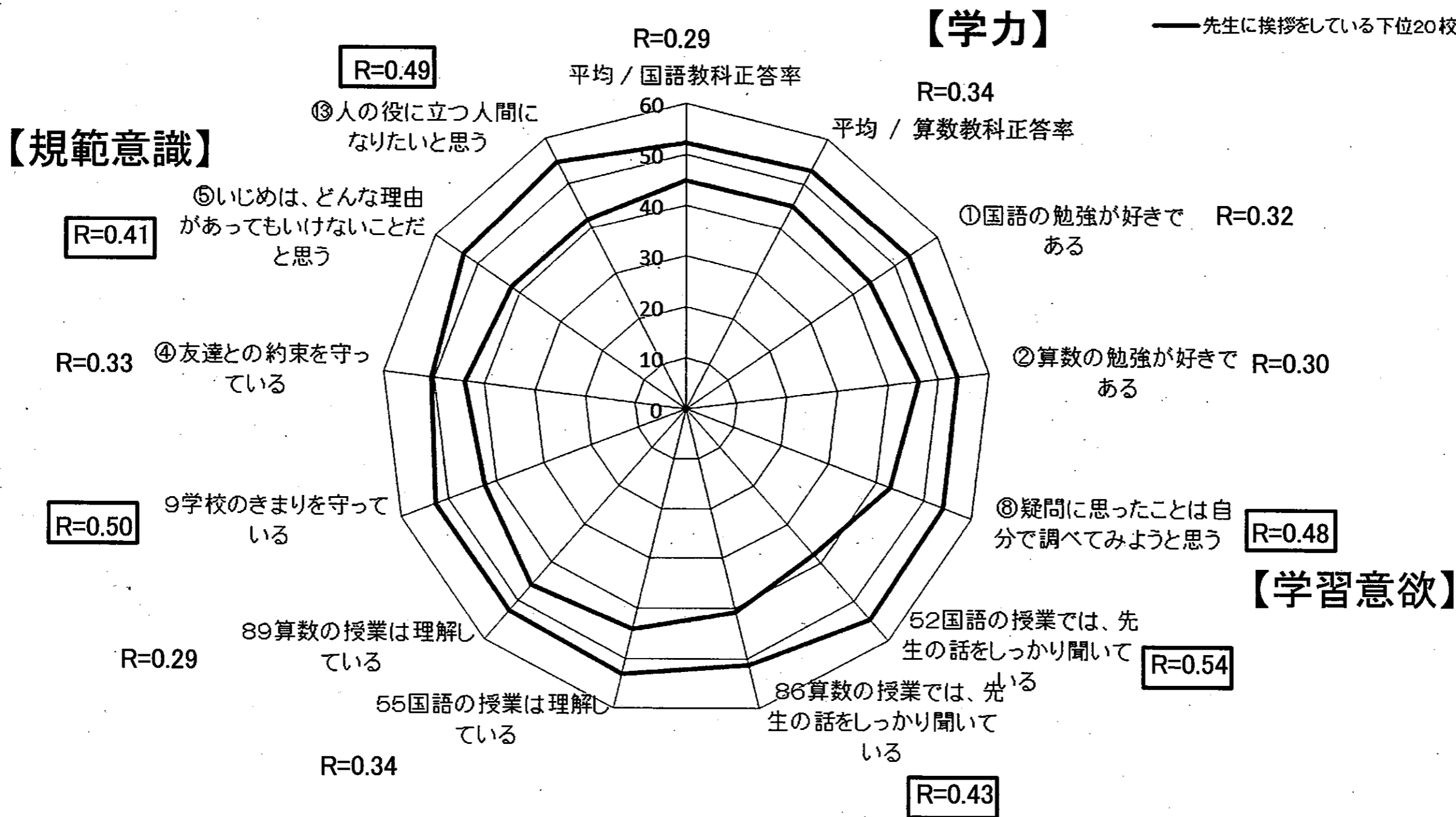
・「先生に挨拶をしている」と回答した児童の割合を学校別に分析すると、「学校のきまりを守っている」等、規範意識を表す項目や、「先生の話をしっかり聞いている」等、学習意欲を表す項目と高い相関が見られた。

【小学校4年生】

「学校では、先生に挨拶をしている」と回答した児童の割合(偏差値)上位・下位20校

——先生に挨拶をしている上位20校偏差値平均

——先生に挨拶をしている下位20校偏差値平均

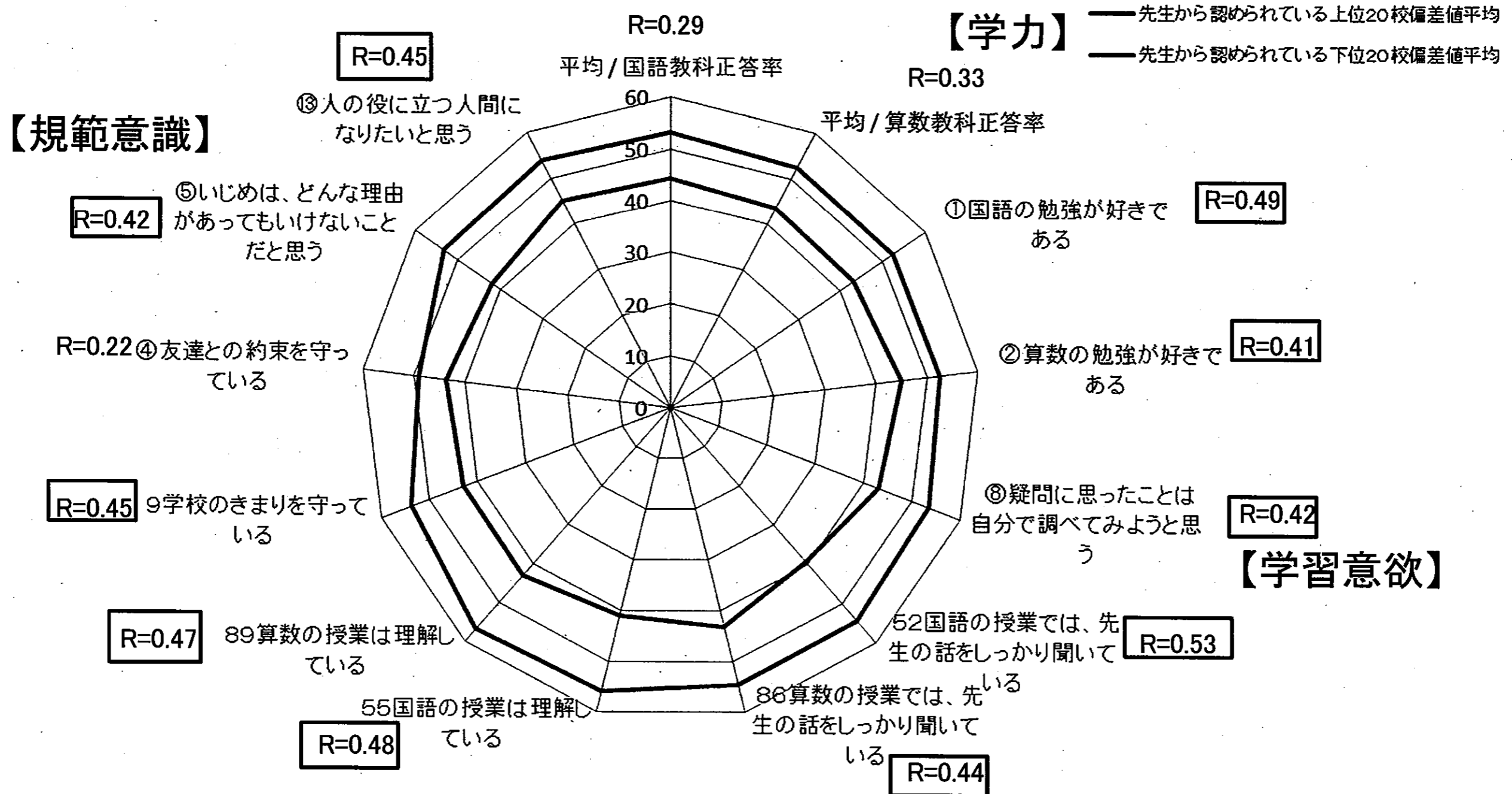


2-3 「先生から認められている」項目の上位・下位20校比較(小学生)

・「先生から認められている」と回答した児童の割合を学校別に分析すると、規範意識、学習意欲を表すほぼ全ての項目との間に高い相関が見られた。

【小学校4年生】

「自分は、先生から認められていると思う」と回答した児童の割合(偏差値)上位・下位20校



2-4 「授業中自分の考えを発表する機会がある」項目の上位・下位20校比較(小学生)

・「授業中自分の考えを発表する機会がある」と回答した児童の割合を学校別に分析すると、「疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う」等の学習意欲を表す項目と高い相関が見られた。

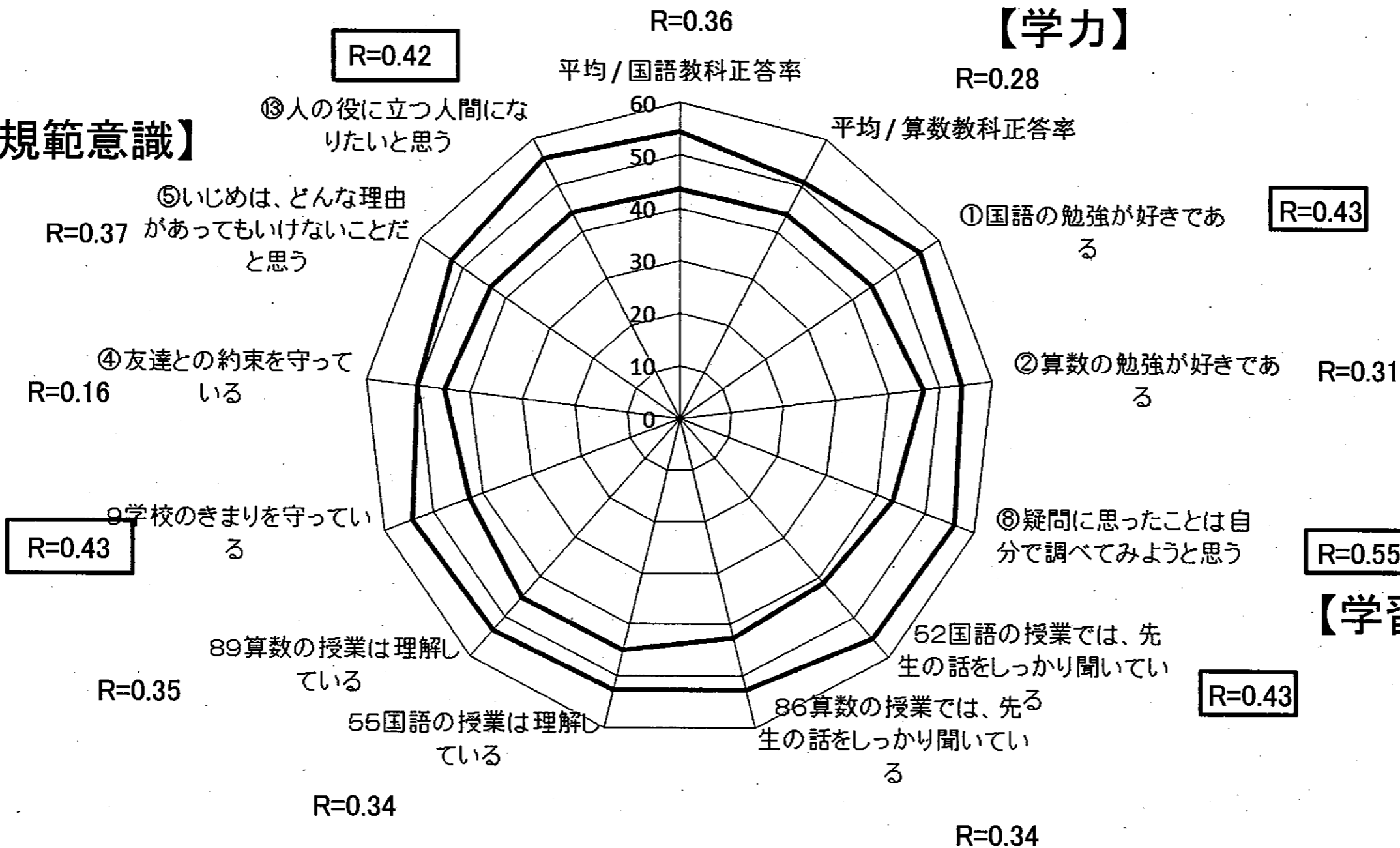
【小学校4年生】

「授業中、自分の考えを発表する機会がある」と回答した児童の割合(偏差値)上位・下位20校

—— 授業中考えを発表する機会がある上位20校偏差値平均

—— 授業中考えを発表する機会がある上位20校偏差値平均

【規範意識】



2-5 「国語の宿題はきちんとしている」項目の上位・下位20校比較(小学生)

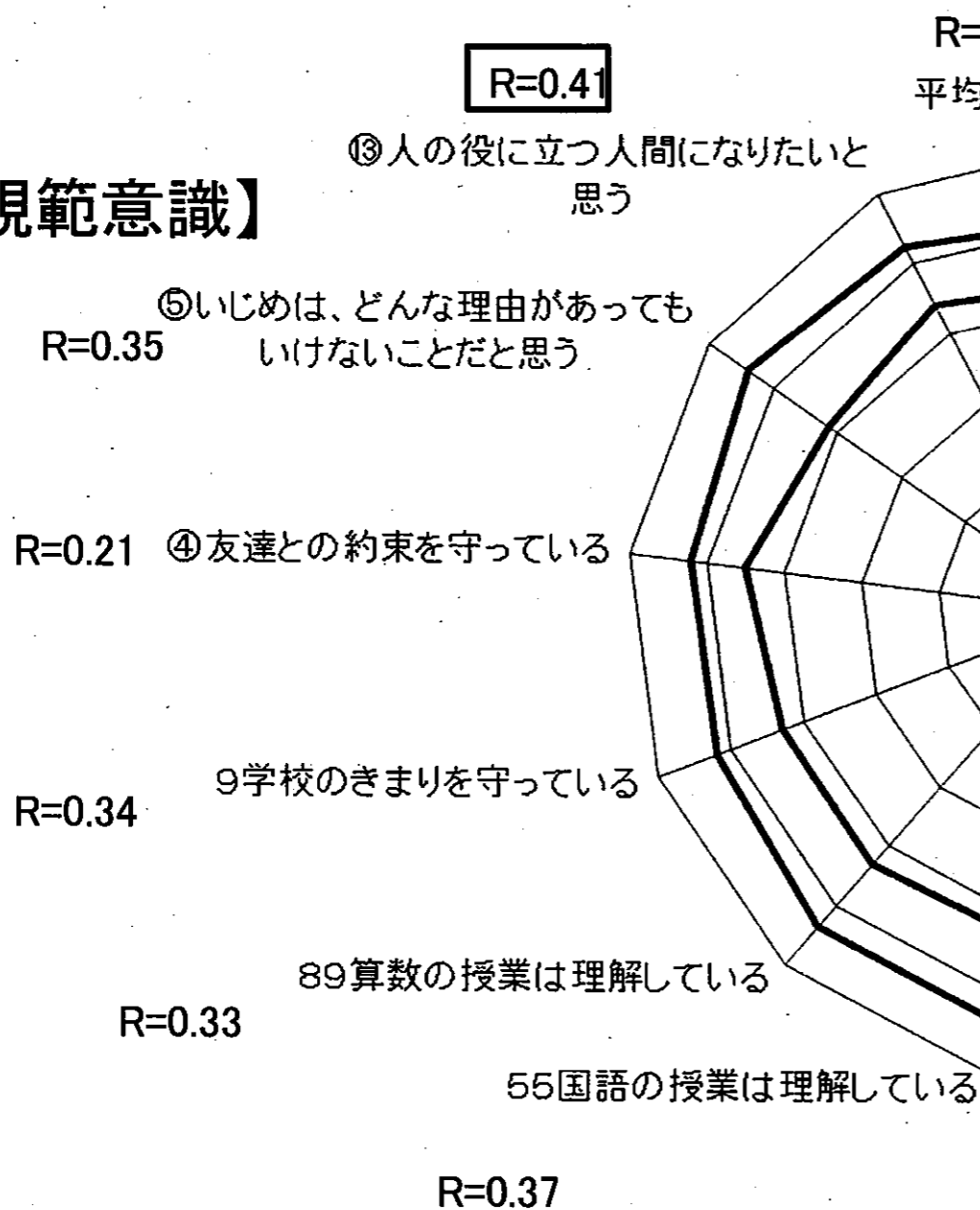
・「国語の宿題はきちんとしている」と回答した児童の割合を学校別に分析すると、「勉強が好きである」「先生の話をしっかり聞いている」等、学習意欲を表す項目と高い相関が見られた。

【小学校4年生】

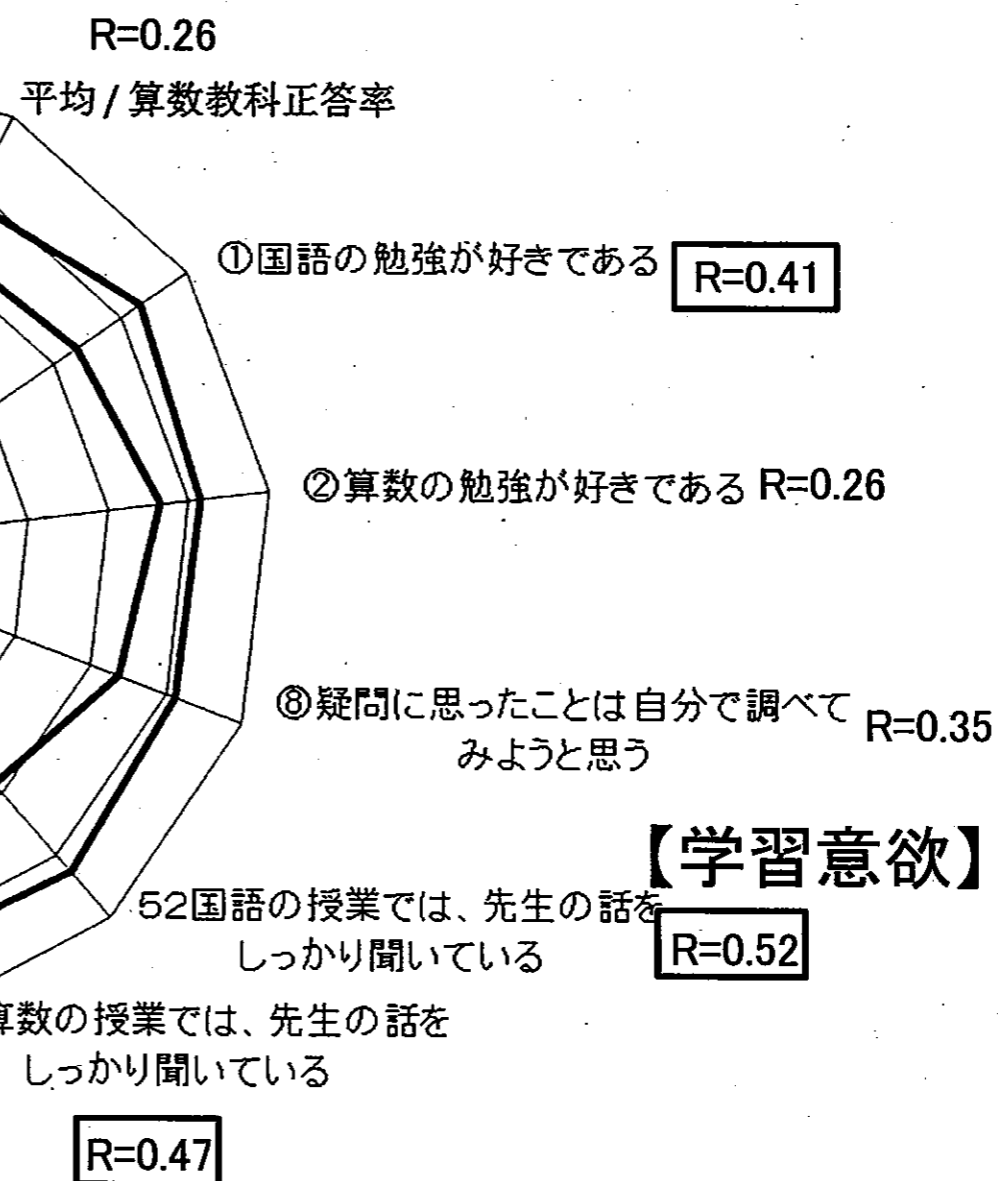
「国語の宿題はきちんとしている」と回答した児童の割合(偏差値)上位・下位20校

——国語の宿題はきちんとしている上位20校偏差値平均
 ——国語の宿題はきちんとしている下位20校偏差値平均

【規範意識】



【学力】



【学習意欲】

2-6 「算数の宿題はきちんとしている」項目の上位・下位20校比較(小学生)

・「算数の宿題はきちんとしている」と回答した児童の割合を学校別に分析すると、「先生の話をしっかり聞いている」「授業を理解している」等、学習意欲を表す項目と高い相関が見られた。

【小学校4年生】

「算数の宿題はきちんとしている」と回答した児童の割合(偏差値)上位・下位20校

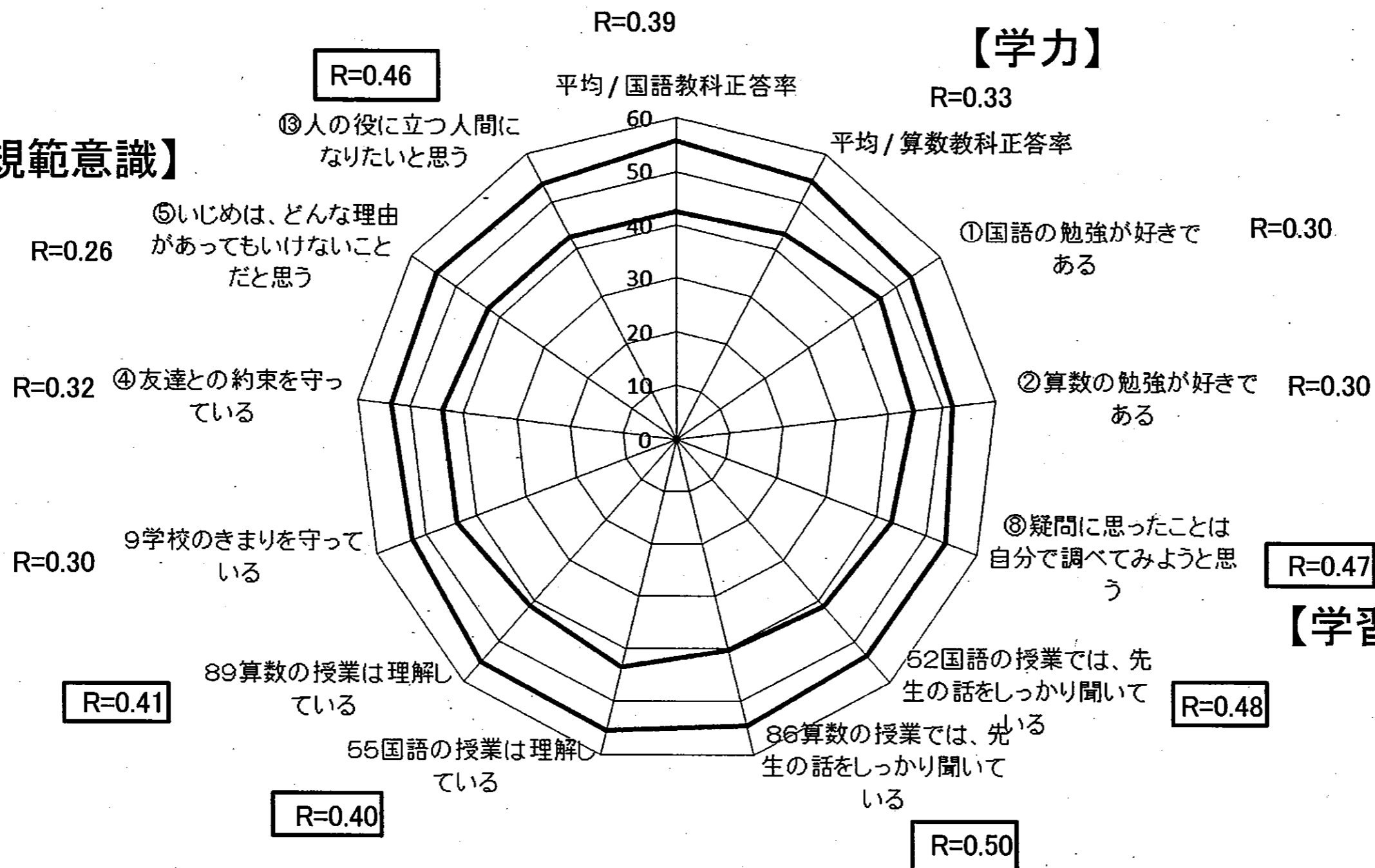
——算数の宿題はきちんとしている上位20校偏差値平均

——算数の宿題はきちんとしている下位20校偏差値平均

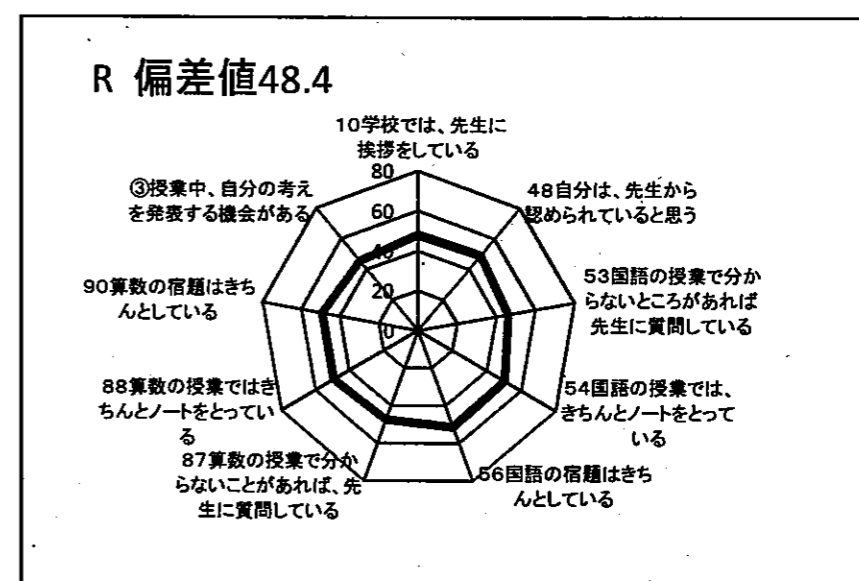
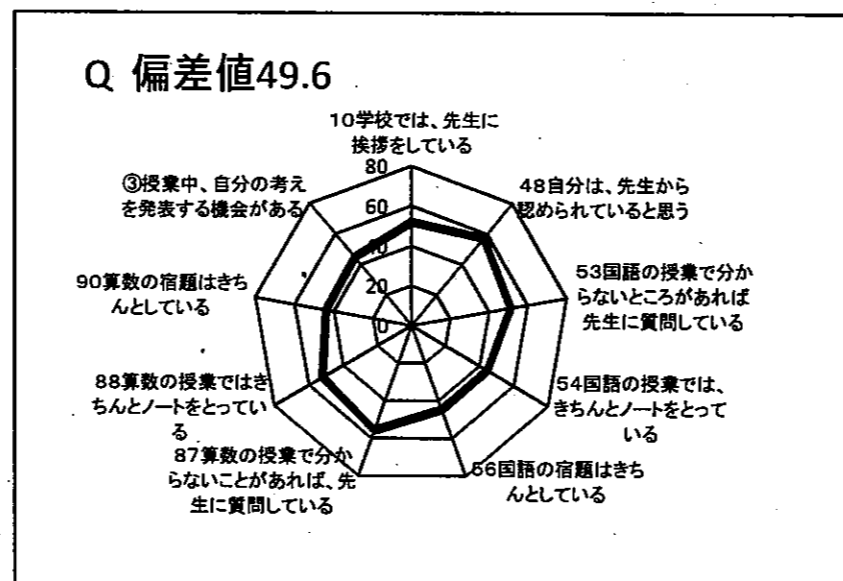
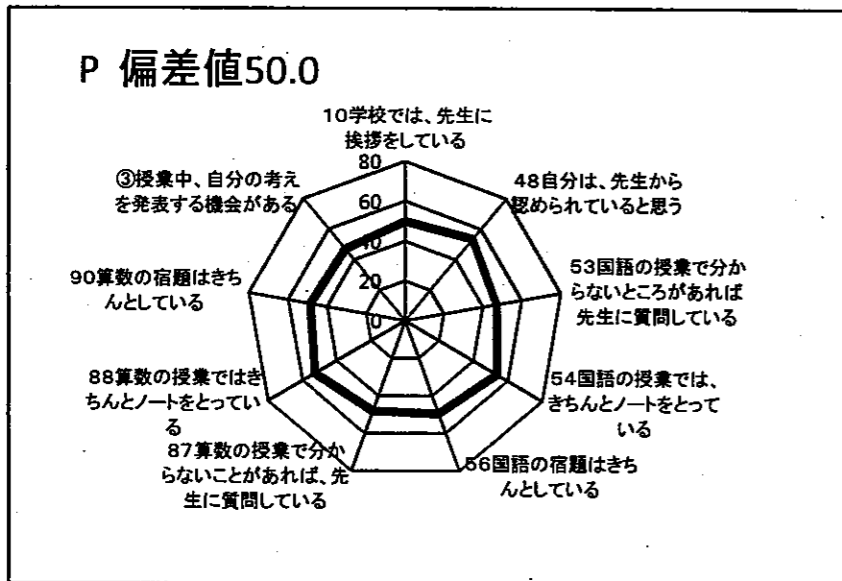
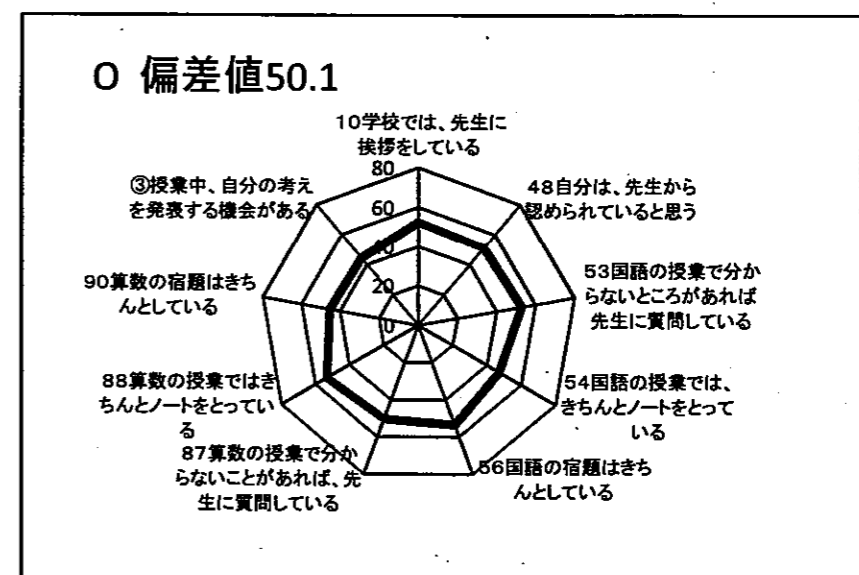
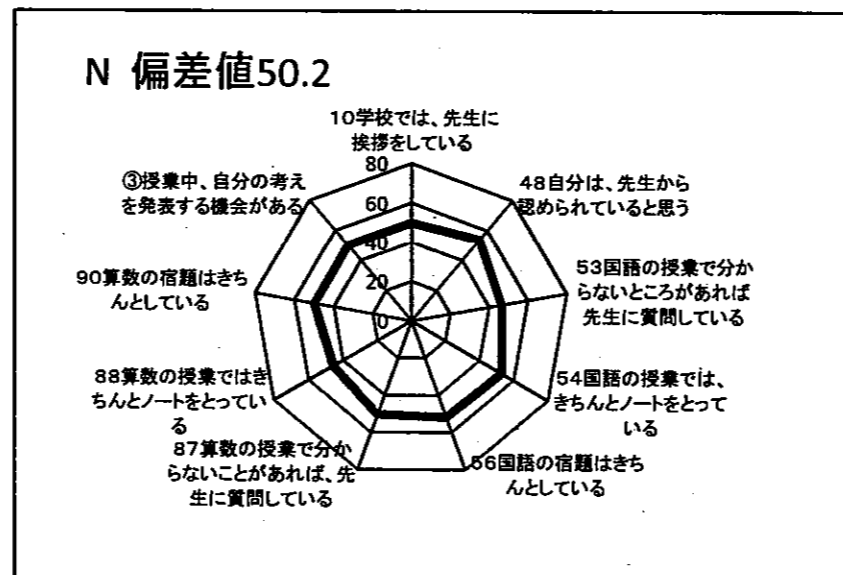
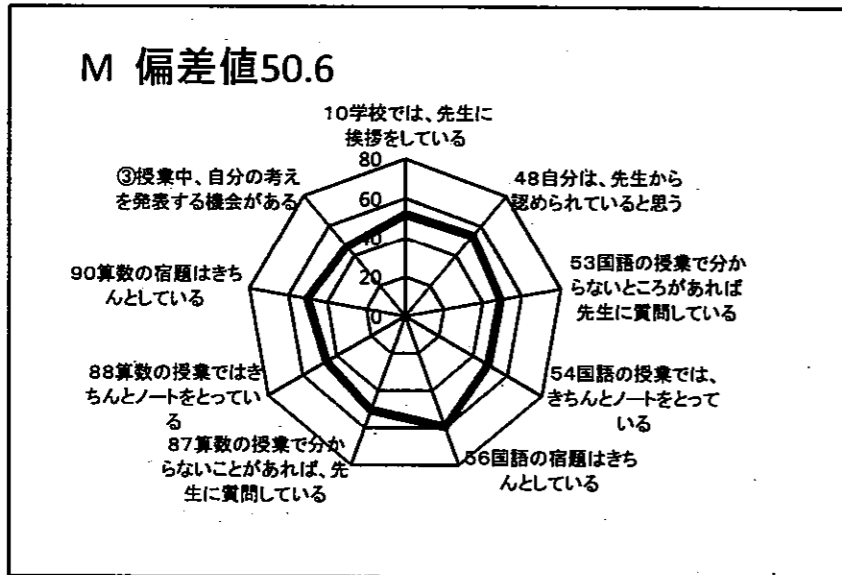
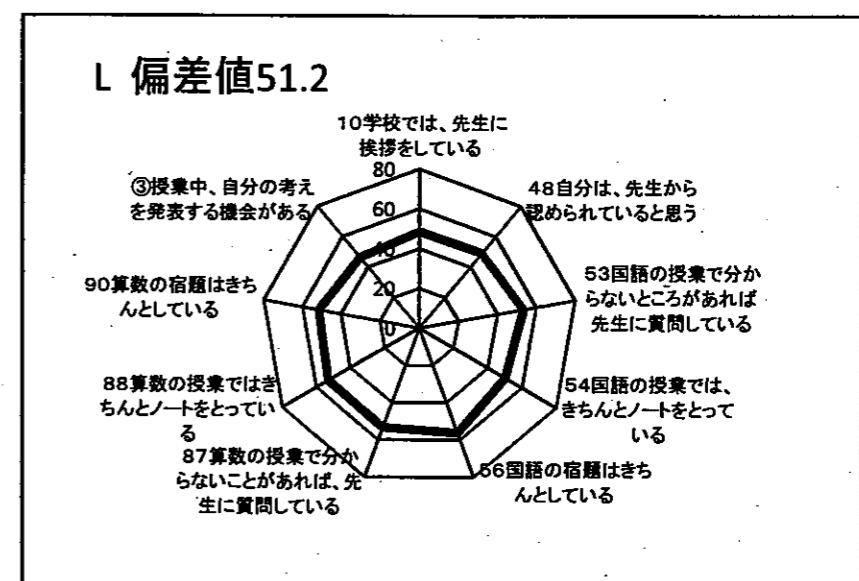
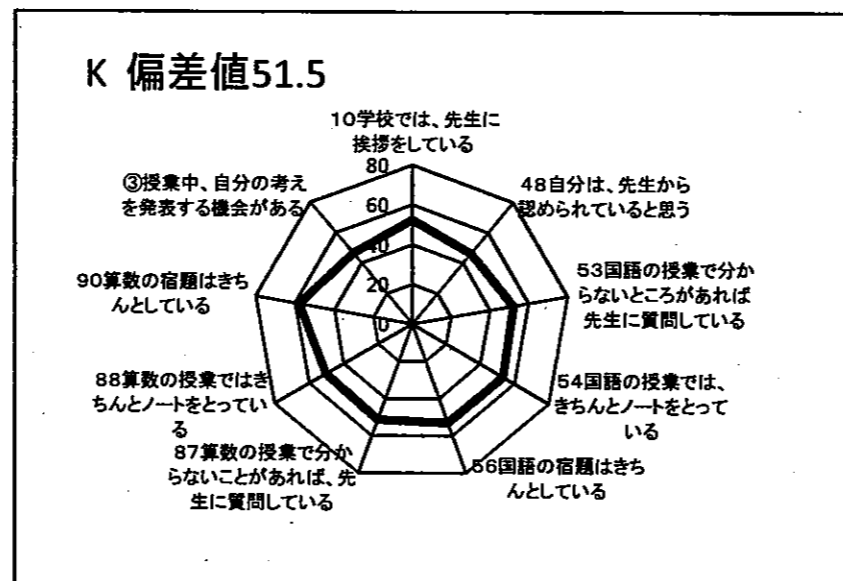
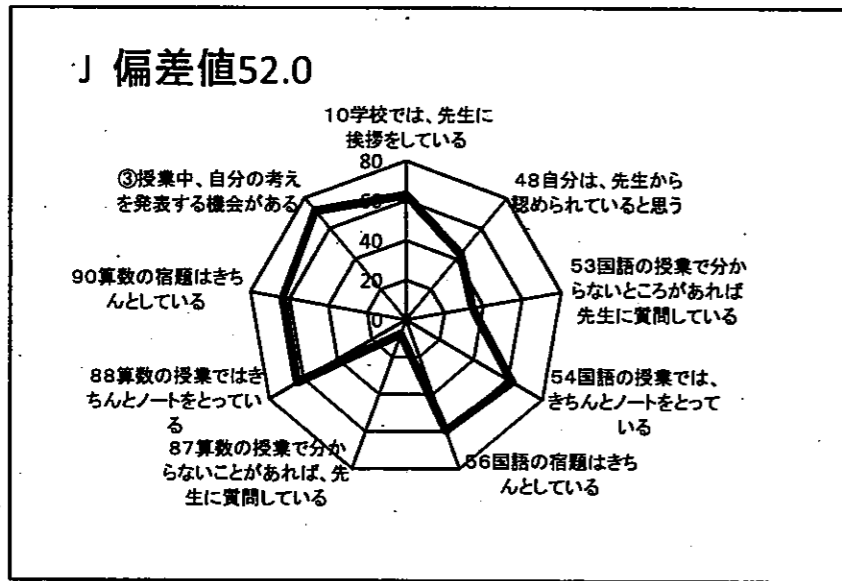
【規範意識】

【学力】

【学習意欲】

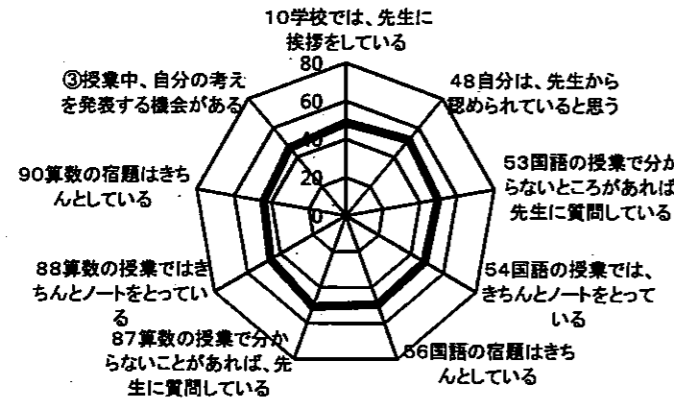


3-2 質問紙項目の総合結果 (小学生・団体別②)

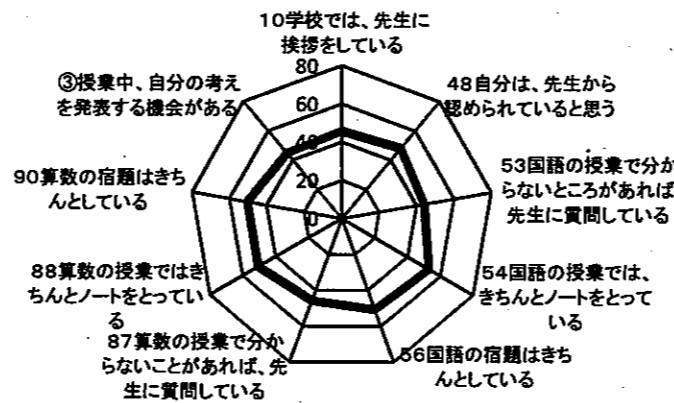


3-3 質問紙項目の総合結果 (小学生・団体別③)

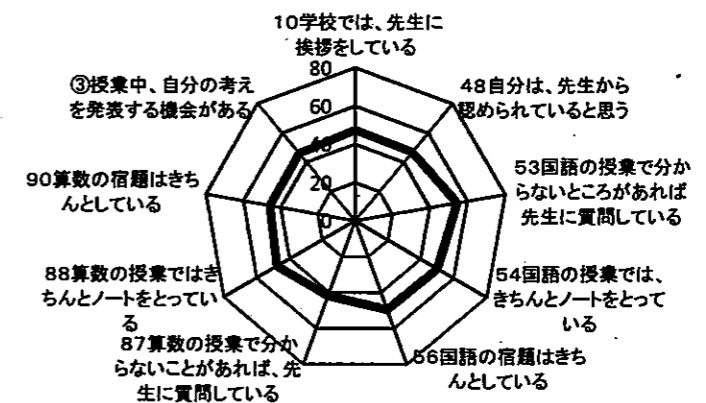
S 偏差値48.4



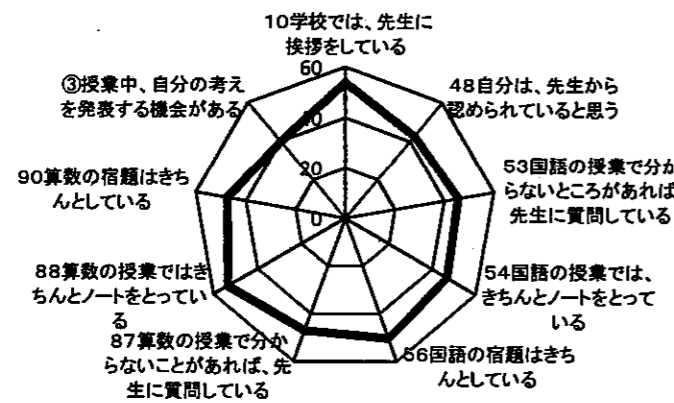
T 偏差値48.1



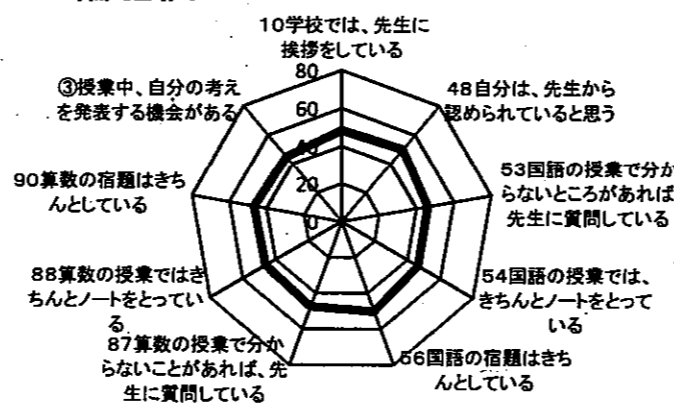
U 偏差値47.7



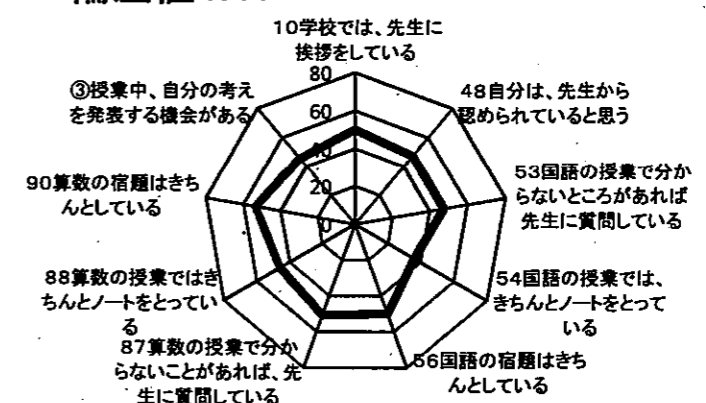
V 偏差値47.5



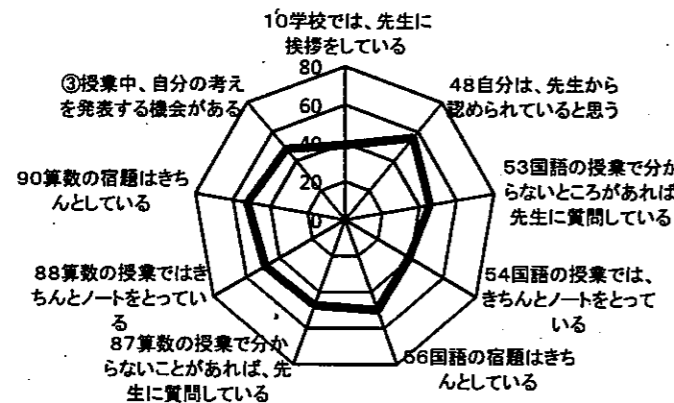
W 偏差値47.4



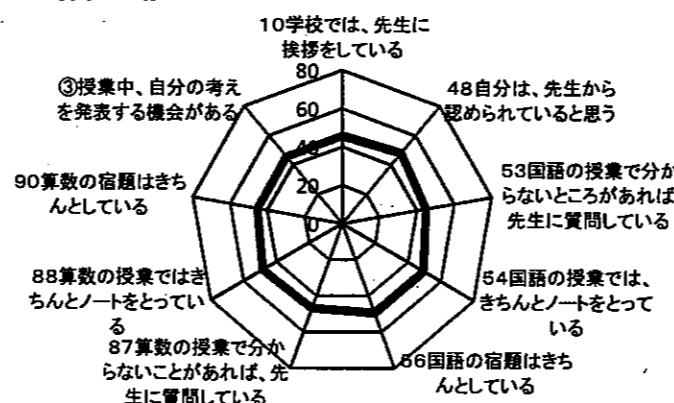
X 偏差値47.4



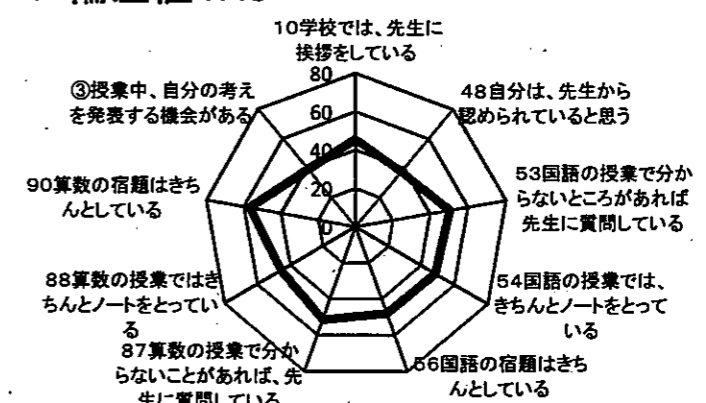
Y 偏差値47.3



Z 偏差値47.1

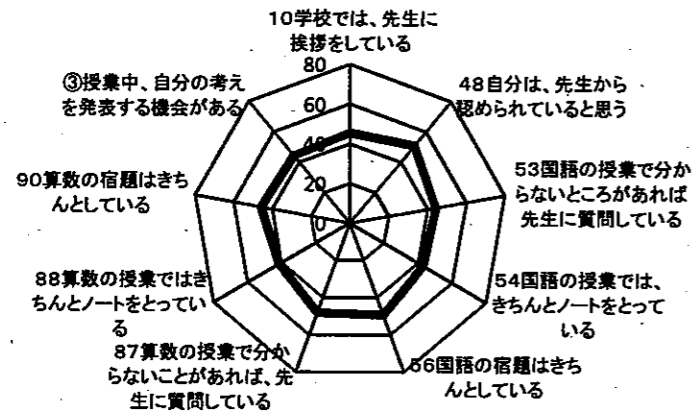


a 偏差値47.0

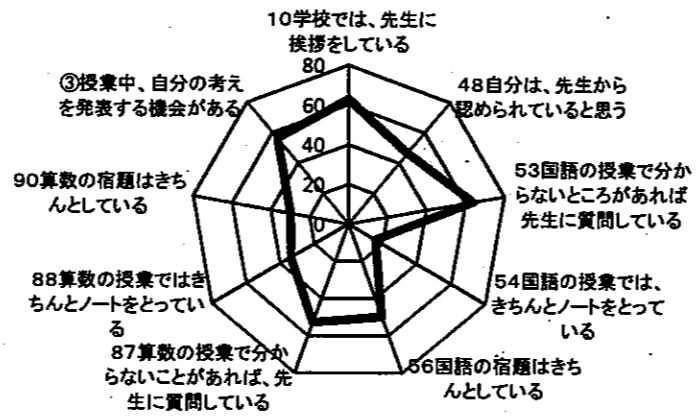


3-5 質問紙項目の総合結果 (小学生・団体別④)

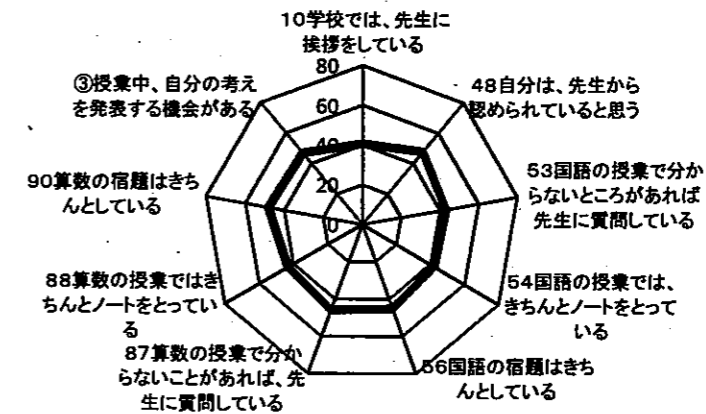
b 偏差値45.8



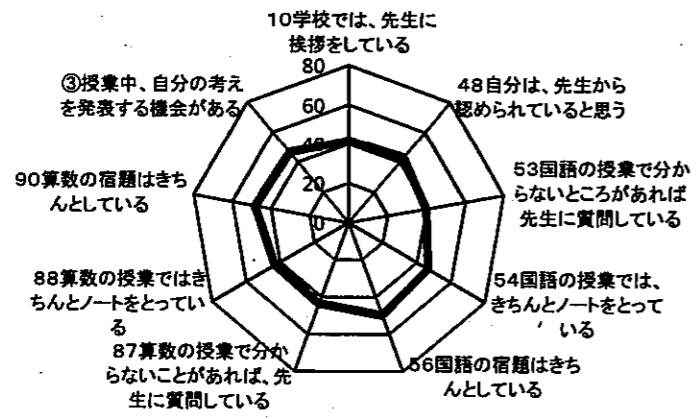
c 偏差値45.7



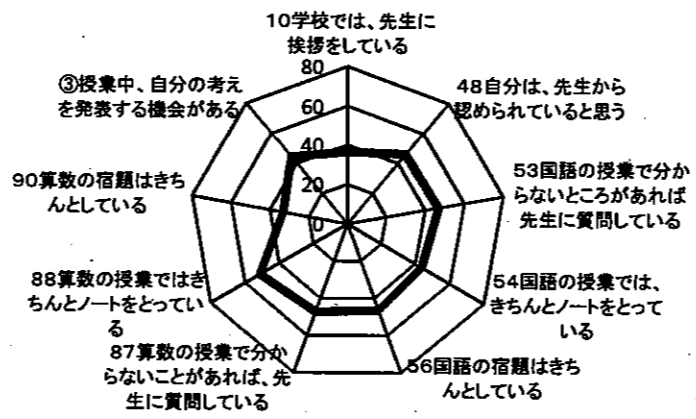
d 偏差値44.8



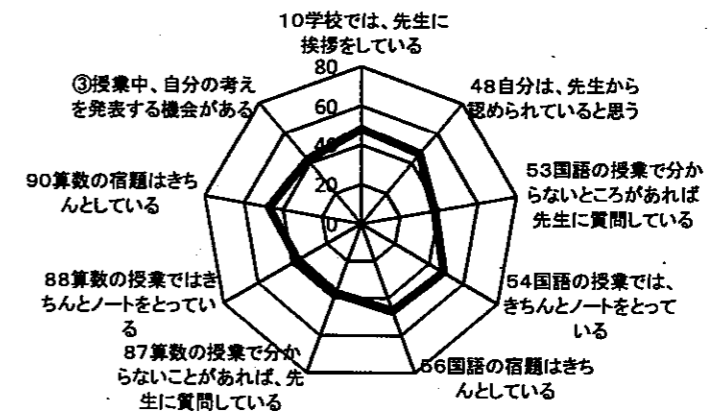
e 偏差値44.6



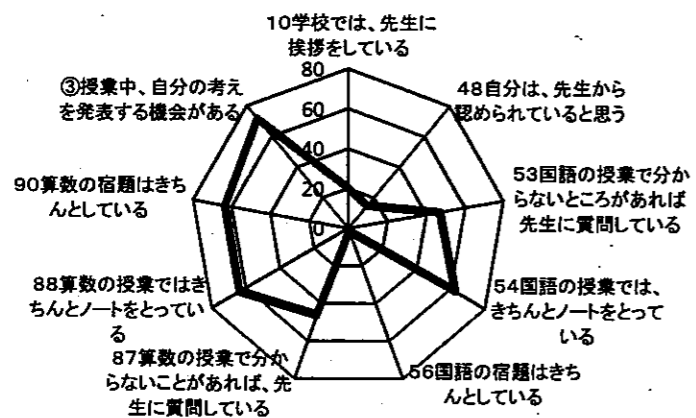
f 偏差値44.0



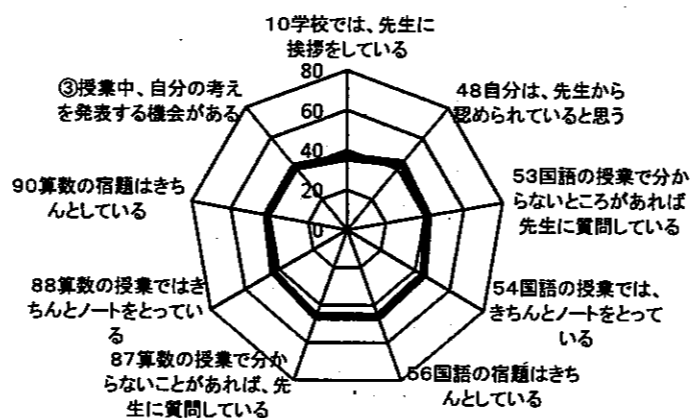
g 偏差値43.4



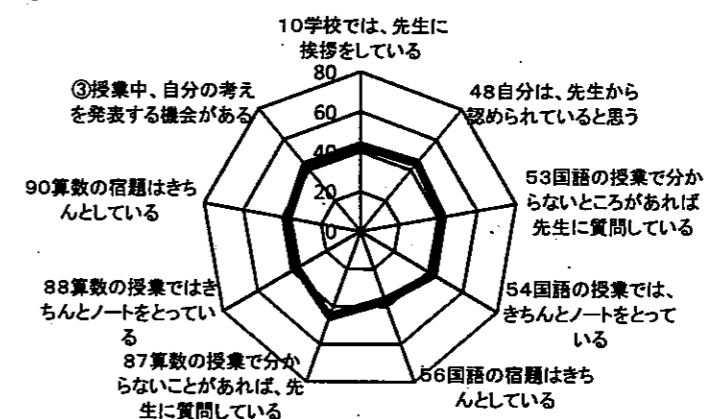
h 偏差値43.4



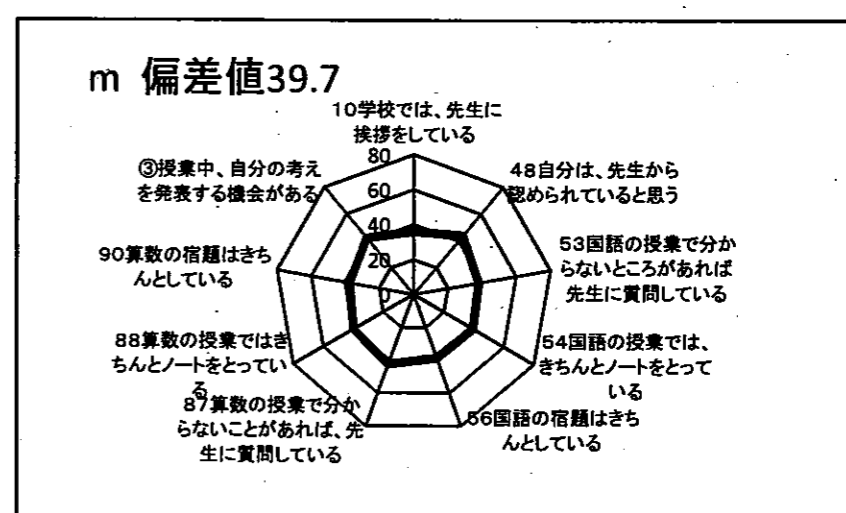
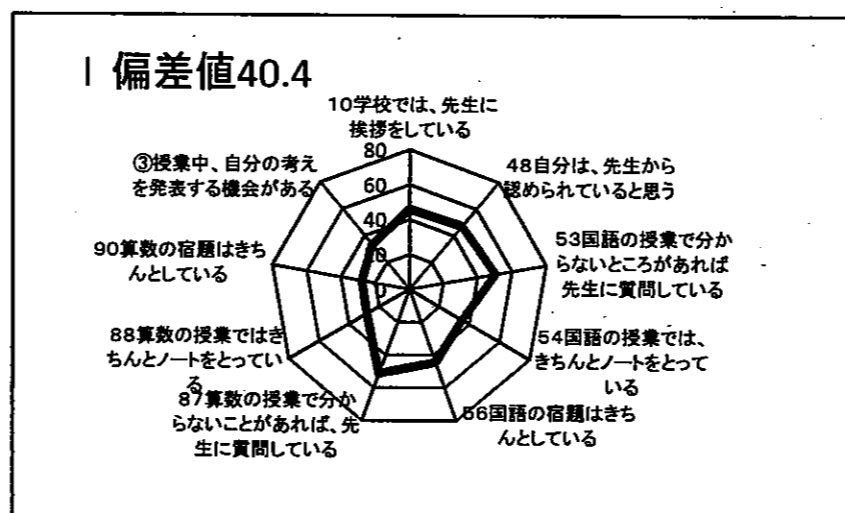
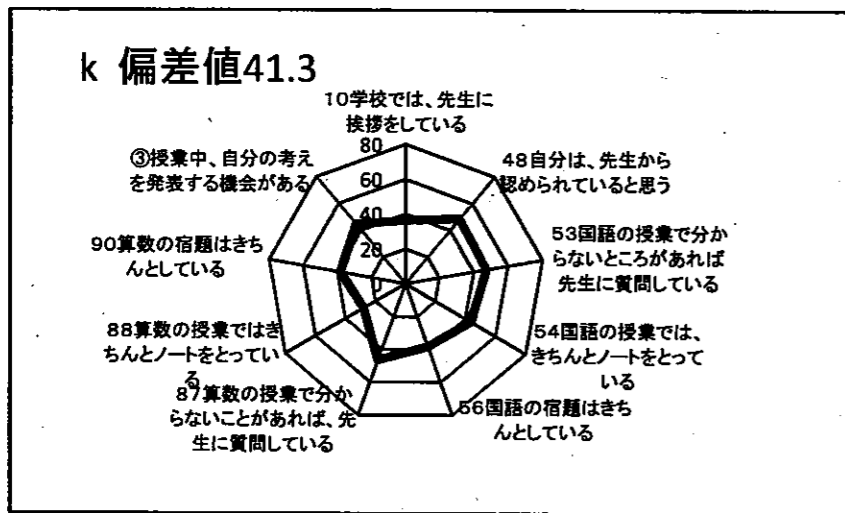
i 偏差値42.7



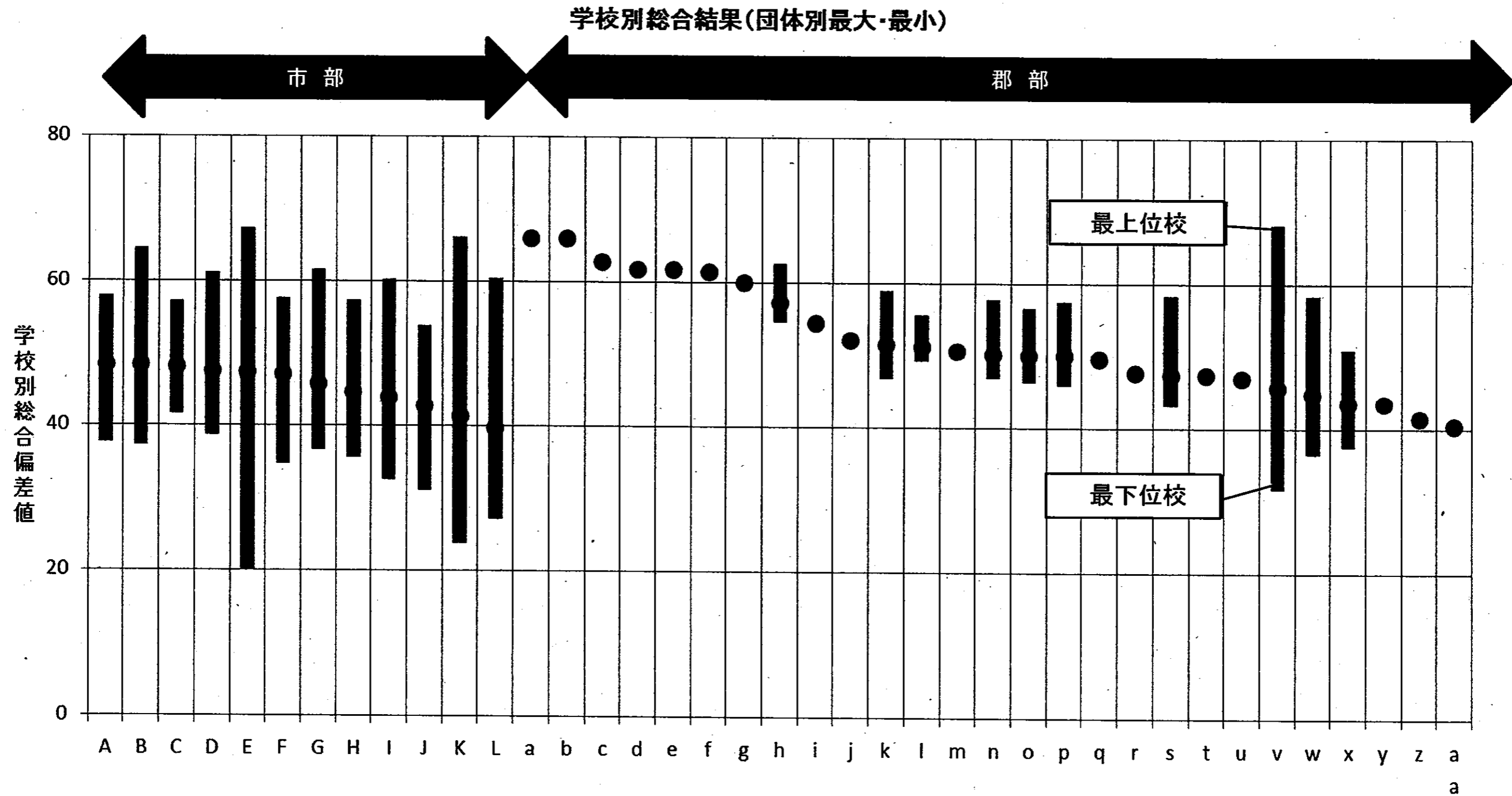
j 偏差値41.4



3-5 質問紙項目の総合結果 (小学生・団体別⑤)



3-6 質問紙項目の総合結果 (小学生・団体別学校分布)



市町村別総合教育会議 進捗状況一覧

資料6

平成27年8月31日現在

○ 第1回奈良県総合教育会議事務局連携会議(8月17日開催)でのアンケートをもとに、各市町村から聴取した内容をまとめたものです。

市町村名	第1回総合教育会議の開催について			教育長について	第1回総合教育会議における主な課題等
	開催済(開催日)	未開催(開催予定日)	未開催の理由	改正地教行法にて任命	
奈良市	6月3日			旧	大綱の策定方針及び今年中に策定することを確認した。
大和高田市	5月28日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
大和郡山市	5月27日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
天理市	6月4日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
橿原市	5月29日			新	大綱の策定、いじめ防止対策。
桜井市	6月3日			旧	大綱の策定。
五條市	7月22日			旧	大綱の策定。
御所市	6月3日			新	大綱の策定、幼児教育・保育の在り方や連携、子育て支援、就学援助の充実、学校規模適正化等。
生駒市	6月22日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。 ※公募市民によるワークショップに全体まとめ役として学識経験者1名が参加予定。
香芝市	5月18日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
葛城市	6月16日			新	大綱の策定、ICT環境の整備、学力向上への施策、いじめ防止対策。
宇陀市	6月18日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
山添村	8月26日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
平群町	6月8日			新	現状の把握等、今後の進め方を確認した。
三郷町	4月28日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
斑鳩町	5月28日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
安堵町	4月27日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。 ※小中一貫又は連携、郷土学習、重点目標を大綱に盛り込む予定。
川西町		未定		旧	本年度内に開催する予定。
三宅町		9月24日		旧	
川西三宅学校組合	5月28日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
田原本町	7月15日			旧	大綱の策定、学校の規模適正化。 ※中学校給食実施への進捗状況について協議している。
曾爾村		未定		旧	過疎地域自立促進法(5ヶ年計画)に教育計画を位置付ける予定。
御杖村		未定	11月に選挙があるため	旧	年度内に開催する予定。
高取町	5月28日		/	旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
明日香村	7月7日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
上牧町	8月6日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
王寺町	8月4日			新	大綱「王寺町教育振興ビジョン」の策定、いじめの防止等のための基本的な方針、小中一貫教育と校区の見直し等。
広陵町	7月3日			旧	大綱の説明及び町長の意向説明を行ったが、具体的な内容には至っていない。
河合町	6月22日			旧	大綱の策定、いじめ防止対策。
吉野町	8月12日			旧	現状の把握等、今後の大綱策定の進め方を確認した。
大淀町	8月26日			旧	まだ具体的な課題設定には至っていない。
下市町	7月31日			旧	大綱の策定、施設整備、学校の統廃合(小中一貫校)、少人数教育の推進、学力向上への施策、いじめ防止対策。
黒滝村	8月15日			新	まだ具体的な課題設定には至っていない。
天川村	8月31日			旧	天川村設置要綱の決定。大綱策定に向け教育現場の現状を確認。天川村の長期計画や過疎計画と整合性を図っていく。
野迫川村		未定		旧	本年度内に開催する予定。
十津川村		未定		新	本年度内に開催する予定。
下北山村		未定		旧	本年度内に開催する予定。
上北山村		未定		旧	本年度内に開催する予定。
川上村	6月23日			旧	大綱の策定、ICT環境の整備、学校の統廃合。 ※新教育長を10月1日に任命予定。
東吉野村		9月末		旧	